

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2019年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業278社
3. 内 訳：製造業62、卸売業28、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業49
サービス業39、建設業36
4. 回答企業数：181社（65.1%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

2018年度に「観光・サービス業」を、「観光業」と「サービス業」に分類したため、同2業種の「主要3項目DIの推移」には、2018年度第1・四半期以降のデータを掲載しています。

概 況

— 市内景況は、改善している —

前年同期（2018年7月～9月）と比べた今期（2019年7月～9月）の状況
今期と比べた来期（2019年10月～12月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲3.3で、前年同期と比べ7.5ポイント上昇しました。人件費や経費の増加、従業員不足、仕入単価の上昇が主な課題となっています。

業種別DIは、製造業が同3.7ポイント上昇の0.0となりました。生産設備の老朽化、原材料価格の上昇が経営を圧迫しています。卸売業は同21.1ポイント上昇の9.1となりました。売上の伸長傾向が見られるものの、経費や仕入単価の上昇により、業況と採算が伸び悩みました。小売業は同18.3ポイント低下の▲30.8となりました。市外への人口流出や、ネット販売、競合店への顧客流出による客数の減少が顕著です。運輸・倉庫業は同27.7ポイント上昇の▲5.6となりました。旅客運送、貨物運送では、ドライバーの確保難と高齢化が課題です。また、政府米やミニマムアクセス米の取扱いによる増益が見られました。観光業は同13.3ポイント上昇の▲22.2となりました。観光シーズンの到来による好況が期待されていましたが、日韓関係の悪化による韓国人観光客の減少により、業況の伸びが下方に引っ張られました。サービス業は同0.3ポイント上昇の21.8となりました。従業員の確保難や、人件費の増加が懸念されています。建設業は同5.0ポイント上昇の5.0となりました。従業員の確保難が深刻な課題です。

来期の業況判断DIは▲12.8で、悪化を予想しています。小売業を中心に、全業種で消費税増税の影響が懸念されている他、観光業では韓国人観光客数減少の継続の懸念と閑散期の到来により、業況の改善が困難であると予想されています。製造業は業況、売上、採算の好転が予想されています。

業況、売上、採算

今期（2019.7～9）の業況判断DIは▲3.3で、前年同期(2018.7～9)と比べ7.5ポイント上昇しました。

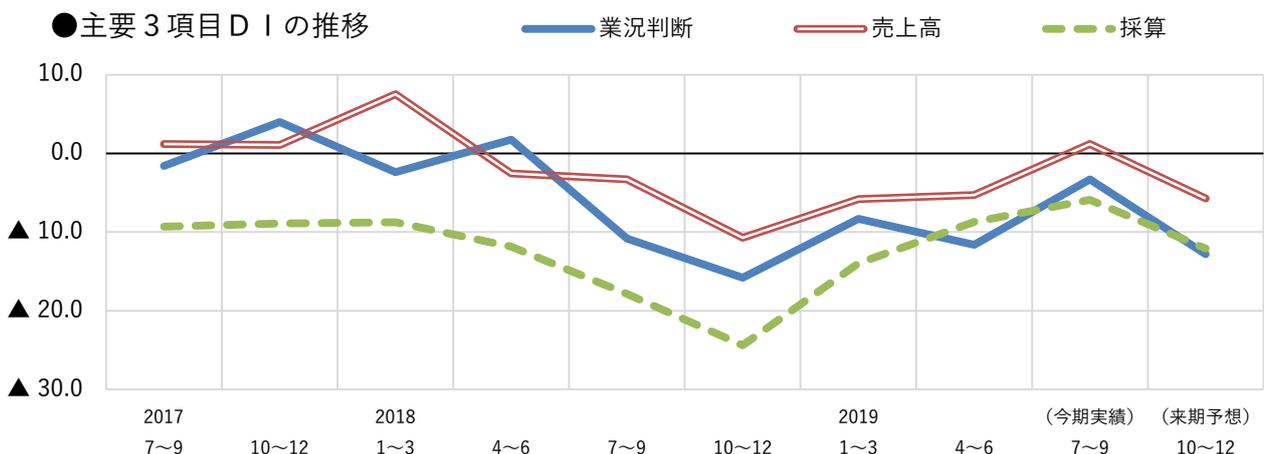
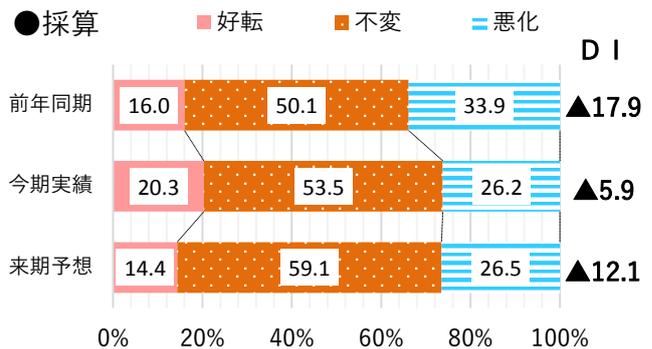
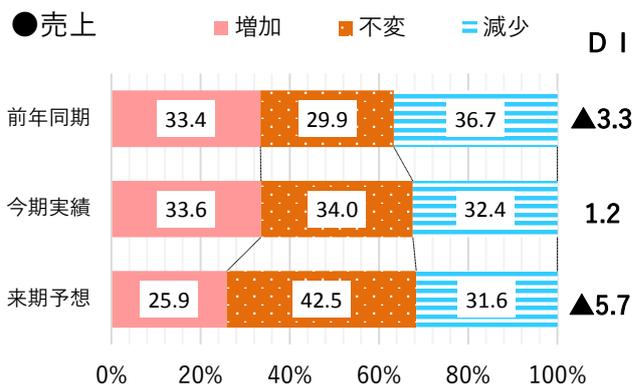
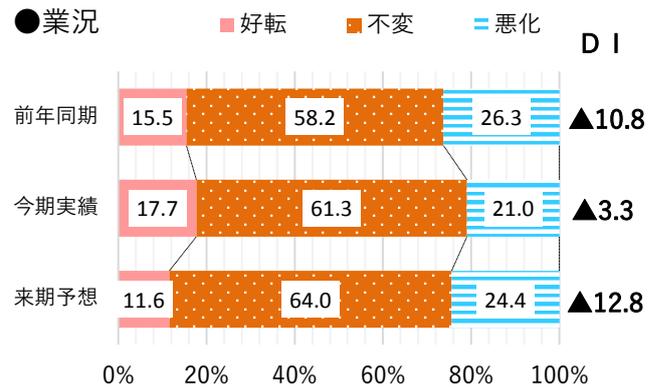
来期（2019.10～12）は、今期と比べ業況の悪化傾向が強まると予想しています。

今期の売上高DIは1.2で、前年同期と比べ4.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上が減少に転じると予想しています。

今期の採算DIは▲5.9で、前年同期と比べ12.0ポイント上昇しました。

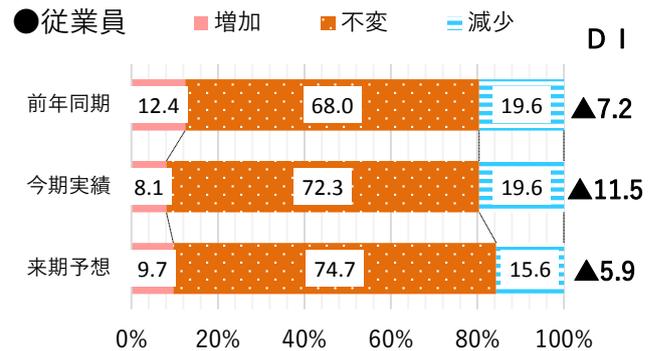
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



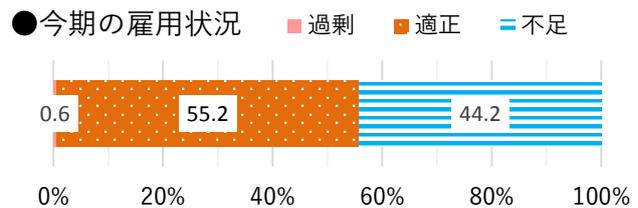
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.5で、前年同期と比べ4.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は0.6%、適正であると回答した企業の割合は55.2%、不足していると回答した企業の割合は44.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の45.3%を占めています。

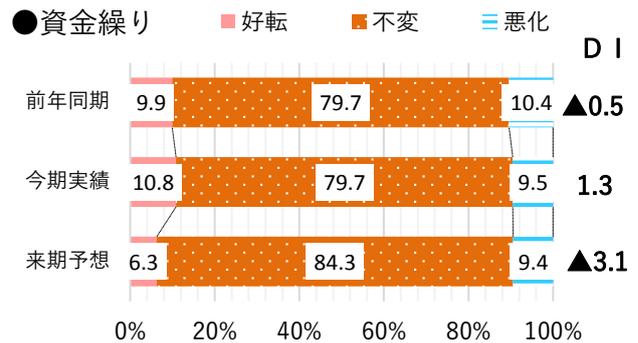
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	8
	不足	5
不変だった	過剰	0
	適正	82
	不足	48
減少した	過剰	0
	適正	10
	不足	27

資金繰り、設備投資

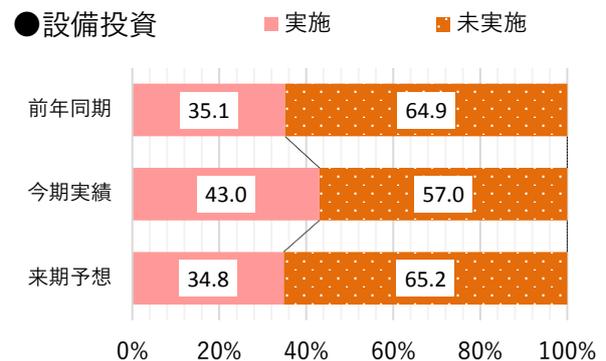
今期の資金繰りDIは1.3で、前年同期と比べ1.8ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りが悪化に転じると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった181社の43.0%にあたる78社が実施、前年同期と比べ7.9%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、「OA機器」（同位）、2位が「付帯施設」の順です。

来期は、34.8%にあたる63社が設備投資を計画していると回答しています。

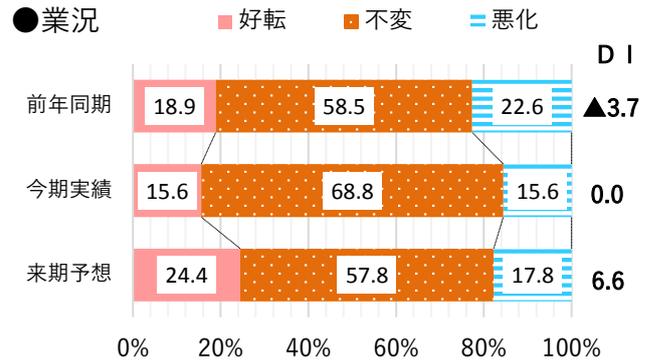


製造業

業況、売上、採算

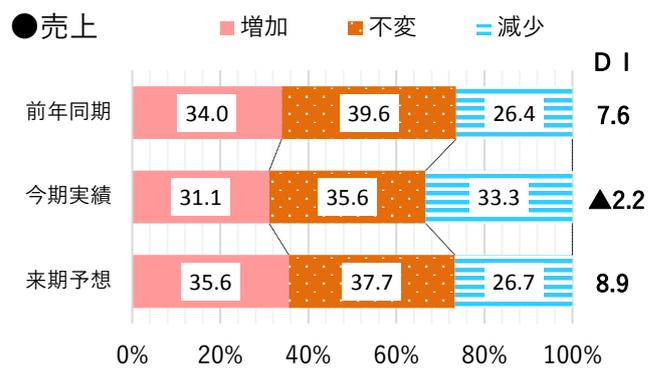
今期(2019.7~9)の業況判断DIは0.0で、前年同期(2018.7~9)と比べ3.7ポイント上昇しました。

来期(2019.10~12)は、今期と比べ業況が好転すると予想しています。



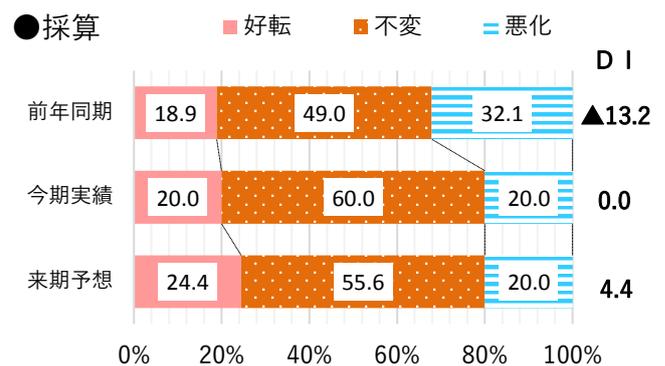
今期の売上DIは▲2.2で、前年同期と比べ9.8ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上が増加に転じると予想しています。

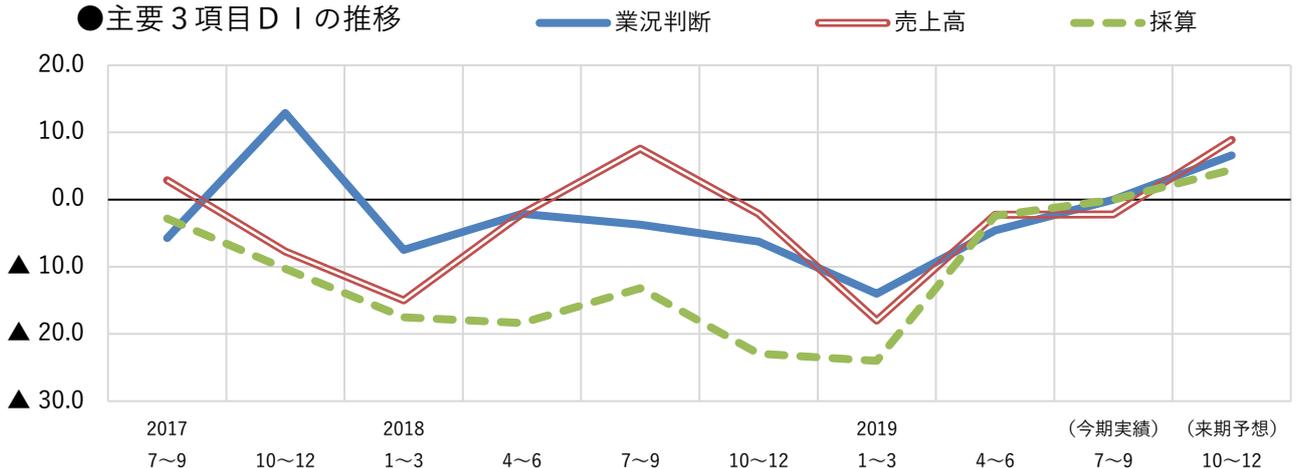


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ13.2ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ採算が好転すると予想しています。



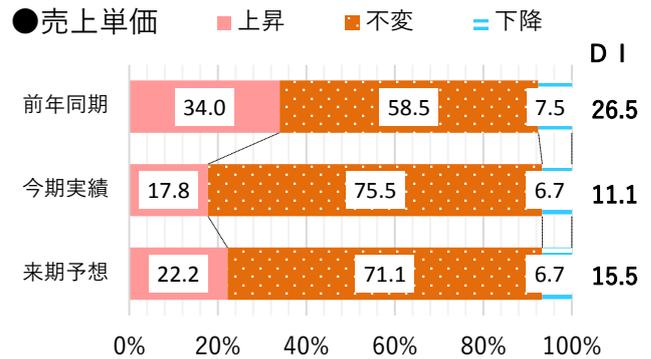
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

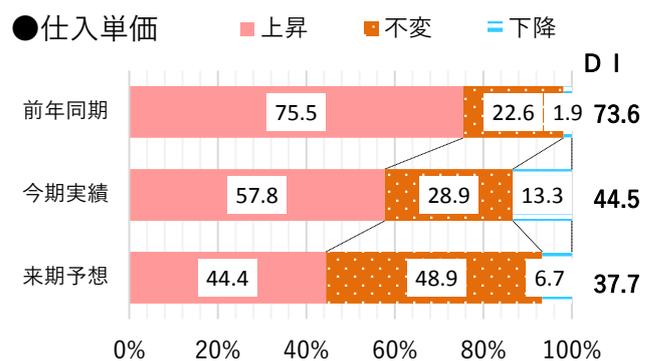
今期の売上単価DIは11.1で、前年同期と比べ15.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上単価が上昇すると予想しています。



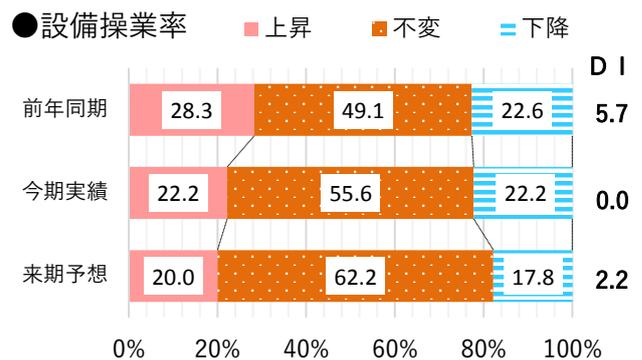
今期の仕入単価DIは44.5で、前年同期と比べ29.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは0.0で、前年同期と比べ5.7ポイント低下しました。

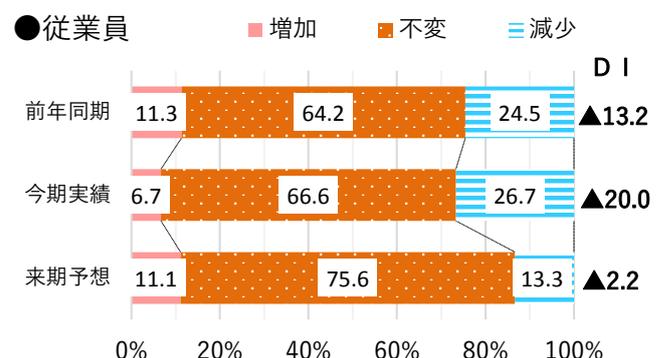
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、設備操業率に大きな変化はないと予想しています。



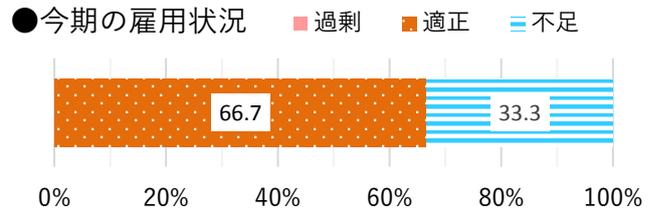
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲20.0で、前年同期と比べ6.8ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は66.7%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の48.8%を占めています。

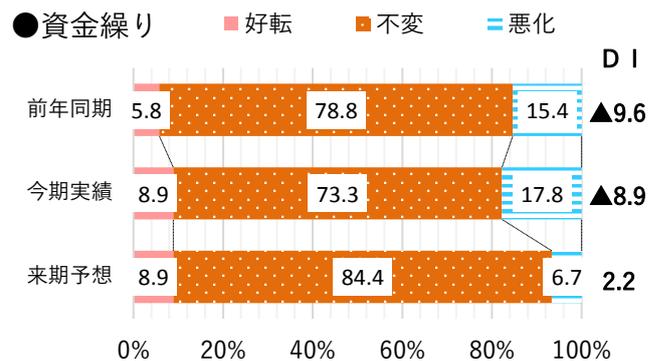
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	22
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	6
	不足	6

資金繰り、設備投資

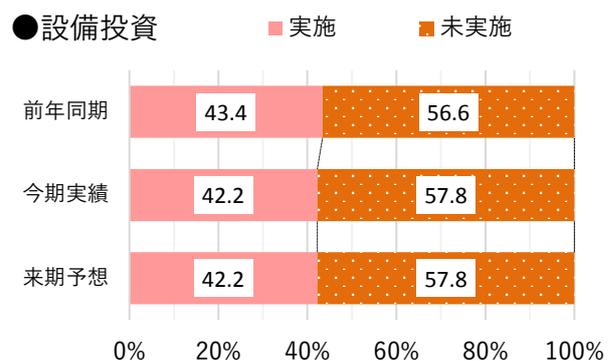
今期の資金繰りDIは▲8.9で、前年同期と比べ0.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りが好転すると予想しています。



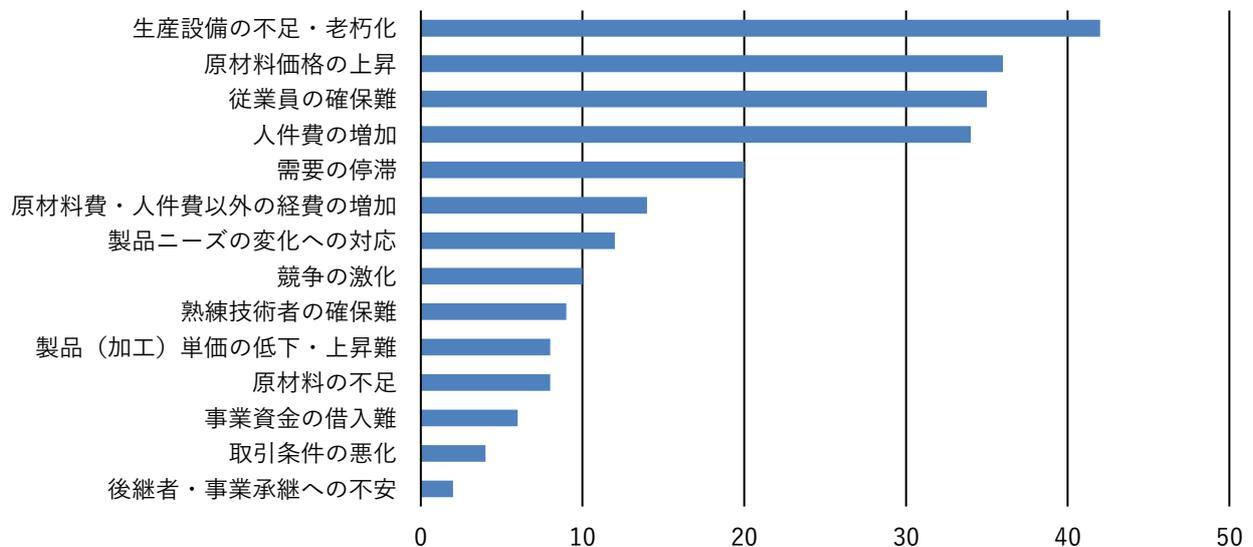
設備投資を実施した企業の割合は42.2%で、前年同期と比べ1.2%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は42.2%で、今期と比べ横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「生産設備の不足・老朽化」、2位が「原材料価格の上昇」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 大型物件の生産が始まるため、工場稼働率は上昇傾向にあるが、売上の計上が翌年となるため、月毎の売上は動きが少ない。（金属製品）
- 売上、原材料仕入価格は横ばいだった。工員が不足している。（金属製品）
- 原材料価格は多少下落したが、再び上昇傾向にある。消費税増税の影響か、発注の前倒し傾向が見られる。（プラスチック）
- 若年層の人材不足が続いている。四半期ごとに売上が増減する。（機械器具）
- 人材の確保が難しく、人件費が増加している。（ゴム製品）
- 台風災害の復興に係る仕事が終了したため、売上、利益ともに減少したが、災害が無かった年度と比較すると、さほど落ち込んでおらず、例年並みの業況と言える。（紙製品）
- 原材料仕入価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できていない。人材確保に苦慮している。最低賃金が大幅に上昇し、経営を圧迫している。（紙製品）
- 前年同期比で売上は増加したが、原材料仕入単価も上昇しているため、採算は横ばいとなった。（紙製品）
- 未消化の受注があり、売上が減少した。（衣服）
- 従業員数の減少と、原材料仕入価格の上昇への対応に苦労している。（その他繊維製品）
- 原材料や資材の価格高騰に伴い、売上が停滞している。人材確保が難しい。扶養の範囲内で就労しているパートが多いため、短い労働時間では生産が間に合わず、顧客の注文を断ることがある。（食料品）
- 新たに開発した加工品の売上は堅調に推移している一方で、採用難による製造スケジュールの遅れにより、既存主力品の売上減少と、資金繰りの悪化が懸念される。（食料品）
- 人材確保が難しく、生産量が減少した。生産効率を改善し、売上を確実に伸ばしたい。（食料品）
- 同業他社との低価格競争により、売上が減少した。（食料品）
- 原材料価格、送料の値上がりで、業況は厳しい。（食料品）
- 受注が減り、売上が伸びなかった。（食料品）
- 社員の頑張りで、売上が増加した。（飲料）

[来期の業況について]

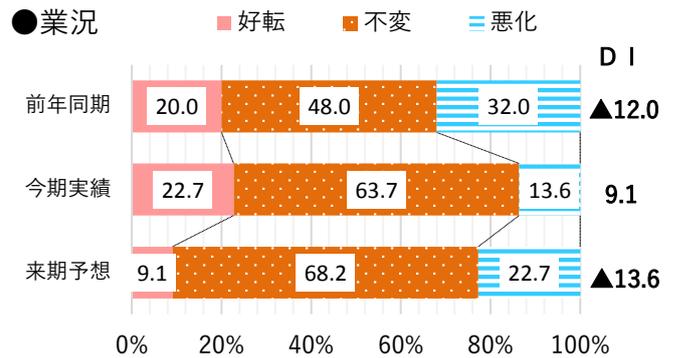
- 鮭の定置網漁が昨年比で微増する見込みであり、自社製品の売上増加が期待できる。（金属製品）
- 好調を維持できる見込みである。（金属製品）
- 原材料仕入価格の上昇が見込まれる。（プラスチック）
- 新規受注を見込んでいる。（プラスチック）
- 今期同様、売上が増加するが、原材料仕入価格も上昇が予想されるため、製品価格の改定を継続する。（紙製品）
- 商品の加工に係る、長期的な受注を確保できるだろう。（衣服）
- 受注件数が増加する見込みである。若い世代を育てる時間を確保し、現在の従業員数を維持したい。（その他繊維製品）
- 引合いは増加しており、良い方向に向かうと予想されるが、従業員の確保や最低賃金への対応は、一層厳しくなると予想する。（食料品）
- 新製品の売上が一段落し、主力製品の受注難も予想される。仕入単価の上昇と人材不足は続くだろう。（食料品）
- 設備増投資、人員配置の見直しにより、生産管理体制を強化する。売上は増加を見込む。（食料品）
- 主原料の秋鮭が豊漁で、価格低下が予想されているため、仕入単価は下がるだろう。（食料品）
- 最低賃金の引き上げによる人件費増加により、採算の悪化が懸念される。（食料品）
- 商品を集約し、採算の改善と合理化を図る。（食料品）
- 消費税増税の影響が懸念される。（食料品）
- 新商品の販売により、売上の増加が期待できる。（飲料）

卸 売 業

業況、売上、採算

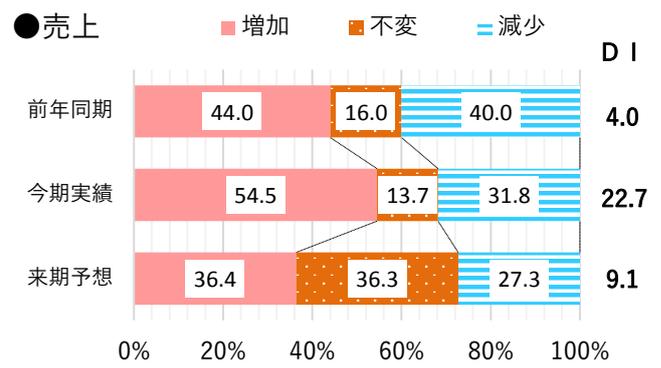
今期(2019.7~9)の業況判断DIは9.1で、前年同期(2018.7~9)と比べ21.1ポイント上昇しました。

来期(2019.10~12)は、今期と比べ業況が悪化に転じると予想しています。



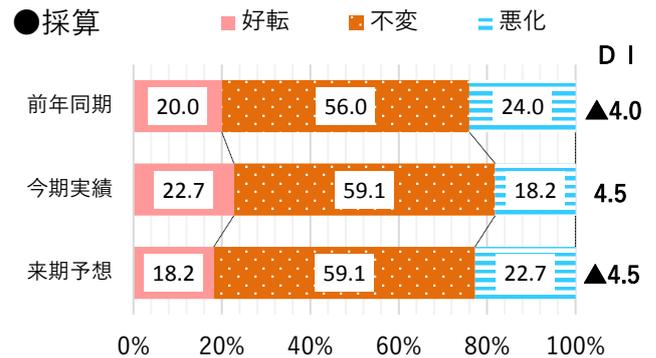
今期の売上DIは22.7で、前年同期と比べ18.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、売上の増加傾向が続くと予想しています。

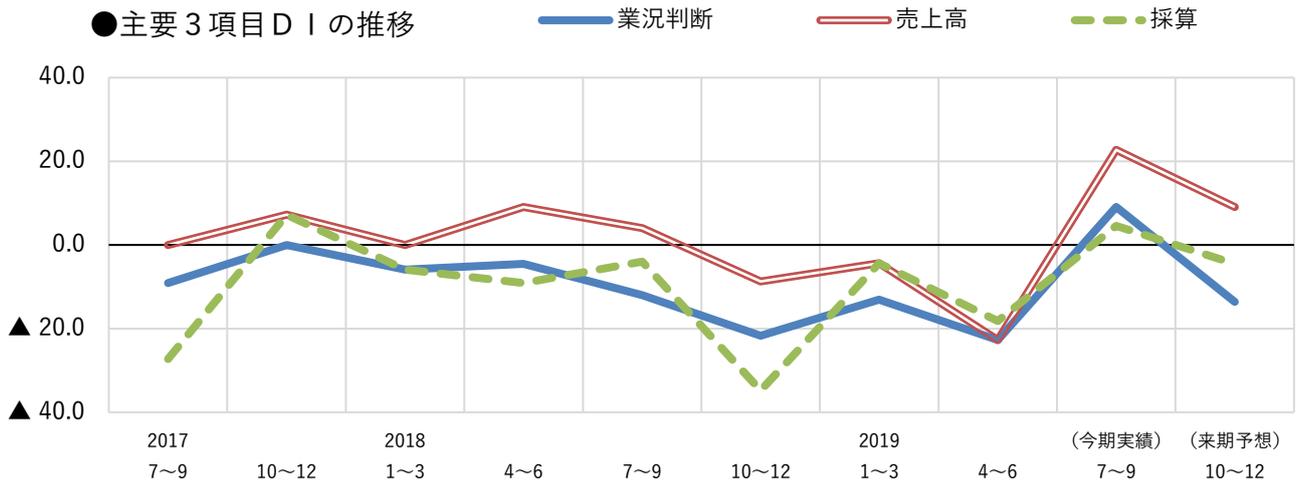


今期の採算DIは4.5で、前年同期と比べ8.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ採算が悪化に転じると予想しています。



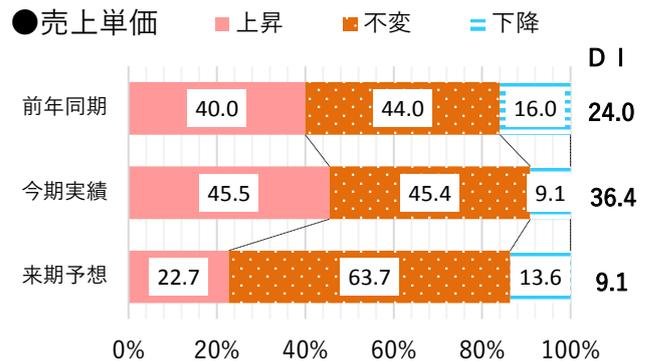
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

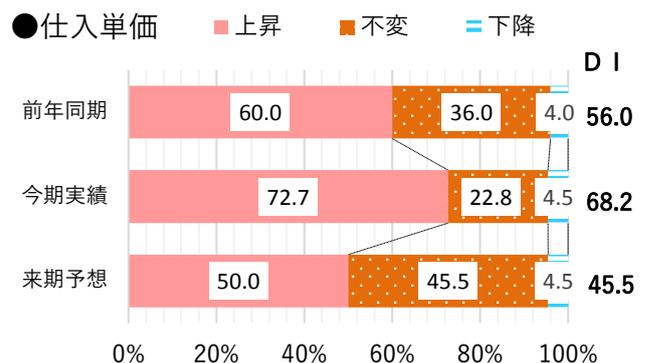
今期の売上単価DIは36.4で、前年同期と比べ12.4ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは68.2で、前年同期と比べ12.2ポイント上昇しました。

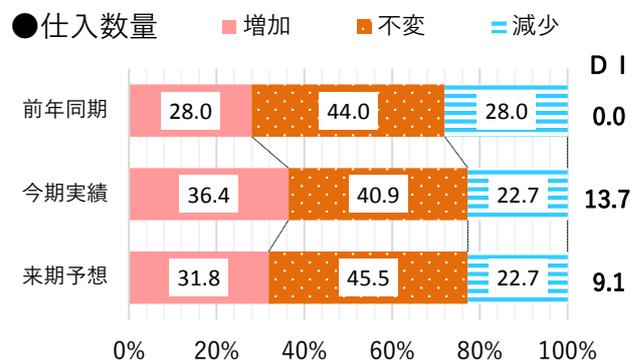
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

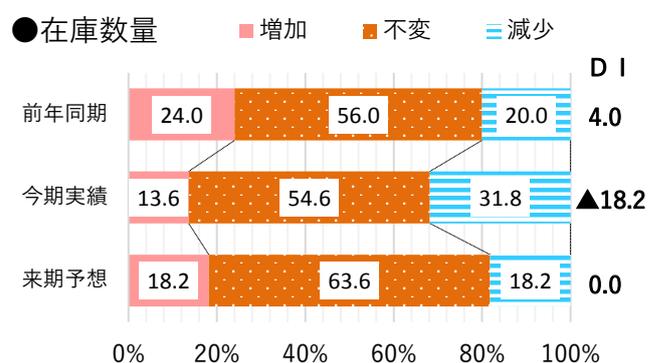
今期の仕入数量DIは13.7で、前年同期と比べ13.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、仕入数量の増加傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲18.2で、前年同期と比べ22.2ポイント低下しました。

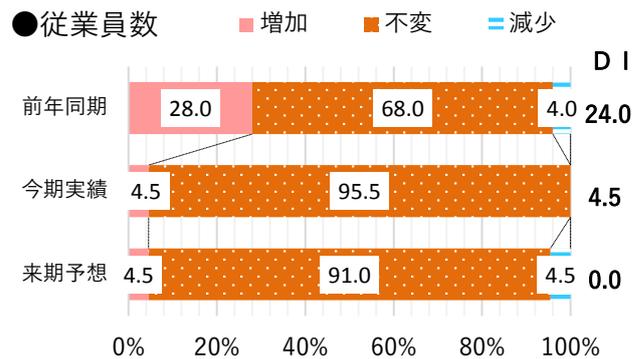
来期は、今期と比べ在庫数量の減少傾向が弱まると予想しています。



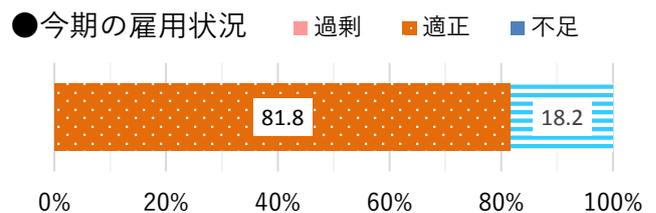
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.5で、前年同期と比べ19.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は81.8%、不足していると回答した企業の割合は18.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の77.2%を占めています。

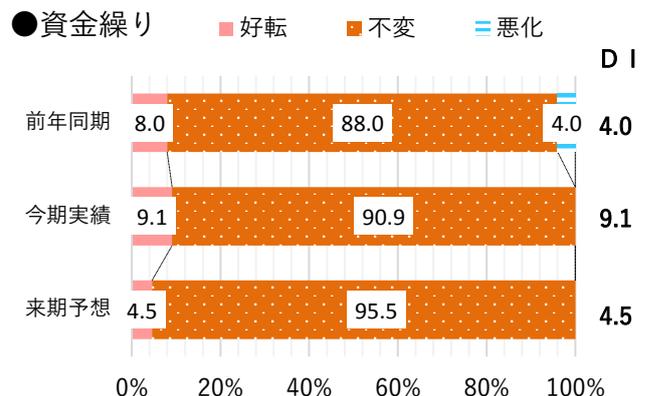
次いで多かった回答は「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	17
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	0

資金繰り、設備投資

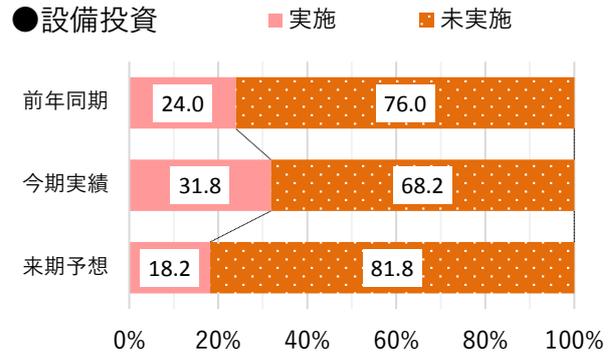
今期の資金繰りDIは9.1で、前年同期と比べ5.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



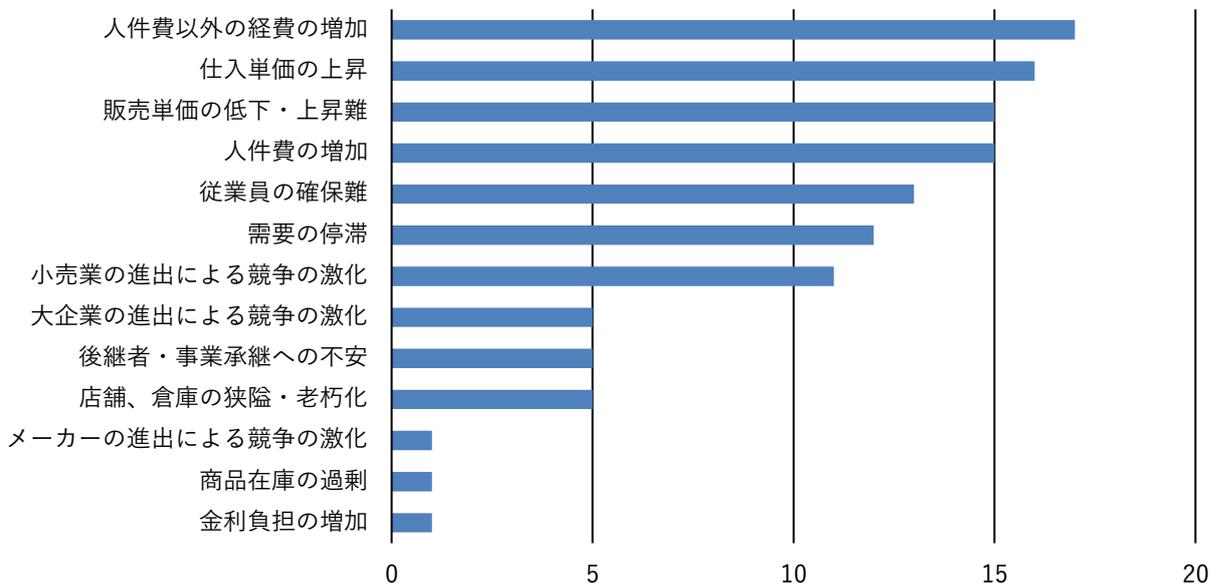
設備投資を実施した企業の割合は31.8%で、前年同期と比べ7.8%増加しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は18.2%で、今期と比べ減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「人件費以外の経費の増加」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「販売単価の低下・上昇難」、「人件費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 7月末から8月中旬の好天に恵まれ、売上と経常利益が増加した。人材は確保できているが、育成期間が必要なため、長期的に取り組むたい。（食料・飲料卸売）
- 消費の低迷により売上が伸び悩む。送料が上昇傾向にある。（食料・飲料卸売）
- 北海道新幹線小樽地区の各トンネル工事に係る資材（生コン、セメント、骨材等）の需要は、来年度から本格化するだろう。現在は、国道5号線の高規格道路の資材の動きが活発である。（建築材料卸売）
- 小樽を除く後志管内への売上が増加した。（鉱物・金属材料卸売）
- 新店舗を開店したため、売上が増加した。（自動車部品卸売）
- 昨年大型受注等があったため、対前年度の売上は悪化しているが、例年と比較すると横ばいである。若い従業員の確保が難しい。賃金面は、3年間若年層を中心にベースアップしている。（電気機械器具）
- 消費税増税前のリース入替の増加と、ウィンドウズ10への入換で売り上げが伸長した。（事務用品卸売）

- 売上は増加したが、仕入価格も上昇した。販売価格の引き上げが難しいため、採算は厳しい。(石油卸売)
- 売上は伸びても競争が激しく、想定した利益を確保するのが難しい状況である。(塗料販売)

[来期の業況について]

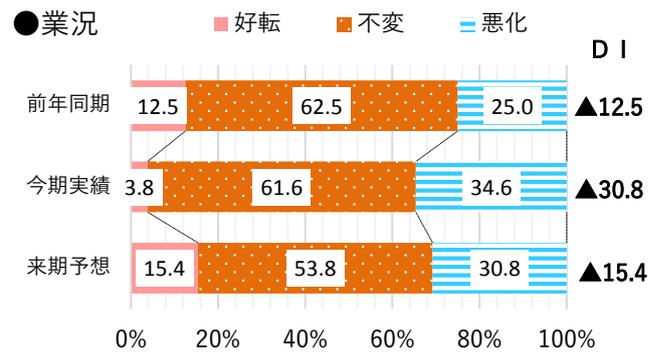
- 今期と比較して大きな変化はないだろう。消費税増税の影響は不透明である。(食料・飲料卸売)
- 10月の消費税増税後は、消費が一時的に落ち込むだろう。(食料・飲料卸売)
- 北海道新幹線小樽地区各トンネル工事に係る資材の需要が高まると予想する。(建築資材卸売)
- 5月の連休後から売上が停滞しており、来期も取引の増加は見込めない。(鉱物・金属材料卸売)
- 冬用部品の売上伸長が期待される。新店舗の売上は、好調を見込んでいる。(自動車部品卸売)
- 旧来の取引先の売上が減少傾向にあり、新規取引先の開拓に取り組むが、業況は厳しいだろう。(電気機械器具)
- 複合機、PCの入替による売上増加が消費税増税前に集中したため、売上は減少を見込んでいる。また、紙の原価上昇により利益が減少するだろう。(事務用品卸売)
- 米中貿易摩擦の影響が予想できず、先行きが分からない。(石油卸売)

小 売 業

業況、売上、採算

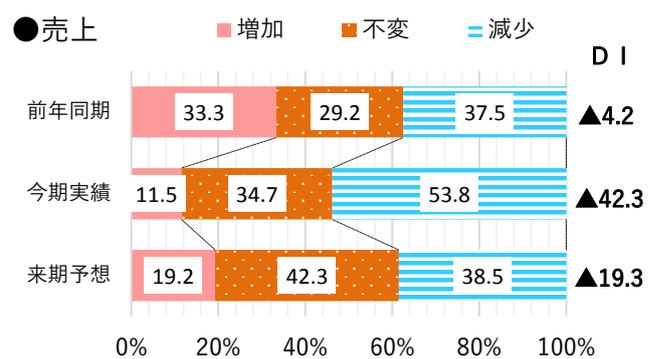
今期(2019.7~9)の業況判断DIは▲30.8で、前年同期(2018.7~9)と比べ18.3ポイント低下しました。

来期(2019.10~12)は、今期と比べ業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



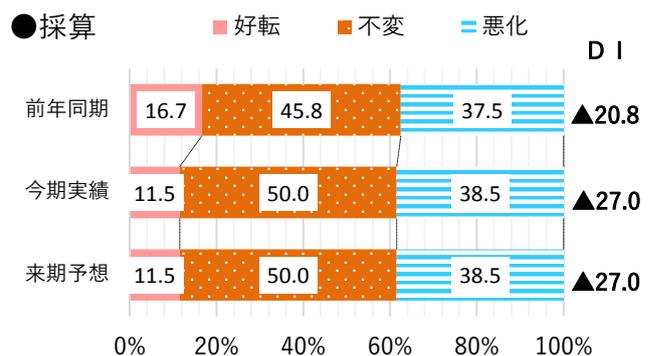
今期の売上高DIは▲42.3で、前年同期と比べ38.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上の減少傾向が弱まると予想しています。

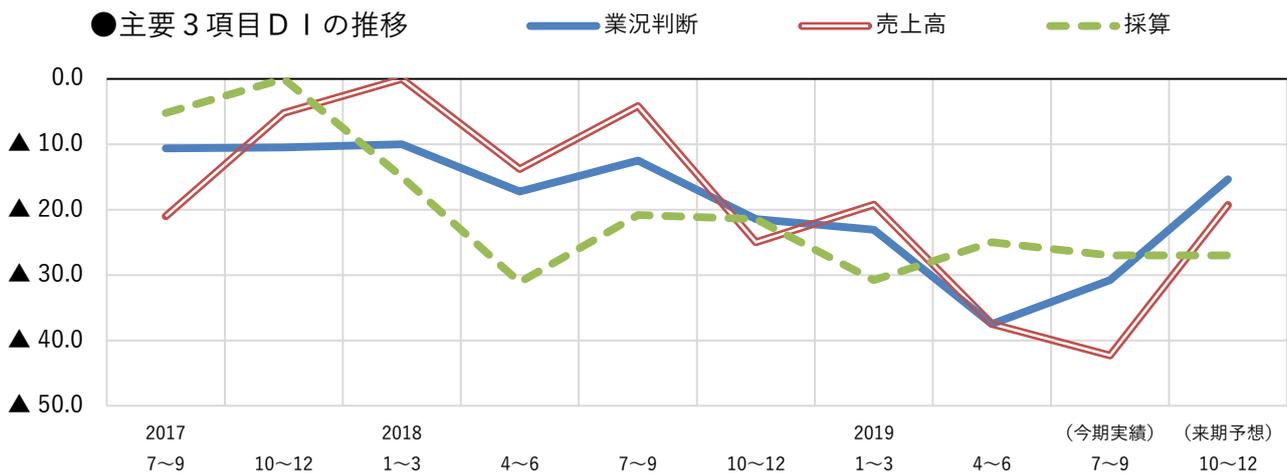


今期の採算DIは▲27.0で、前年同期と比べ6.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ採算の横ばいを予想しています。



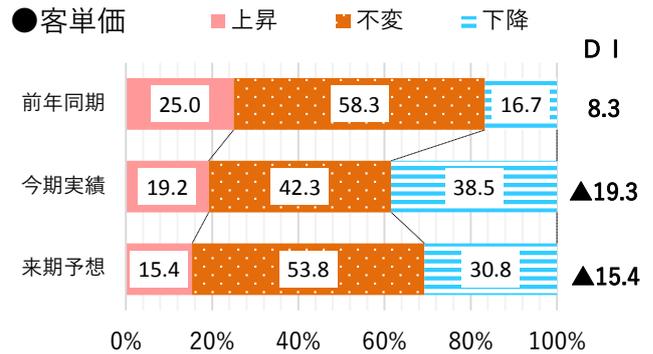
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

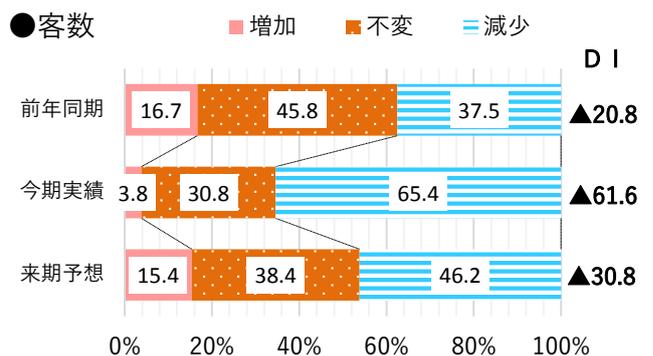
今期の客単価DIは▲19.3で、前年同期と比べ27.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、客単価の下降傾向が続くと予想しています。



今期の客数DIは▲61.6で、前年同期と比べ40.8ポイント低下しました。

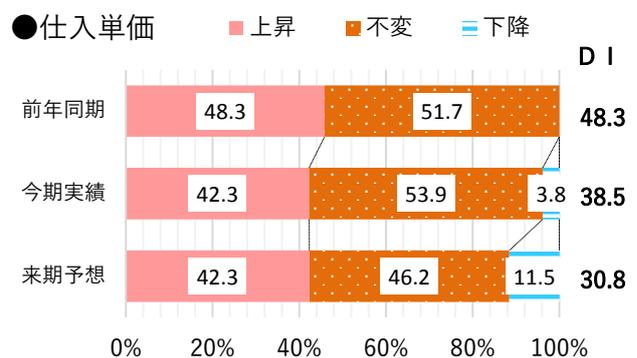
来期は、今期と比べ客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

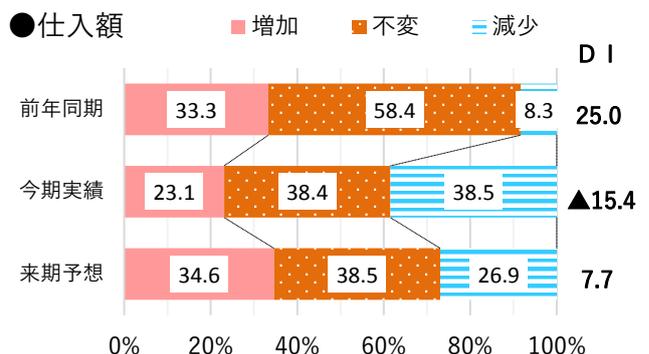
今期の仕入単価DIは38.5で、前年同期と比べ9.8ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ仕入単価の下降傾向が強まると予想しています。



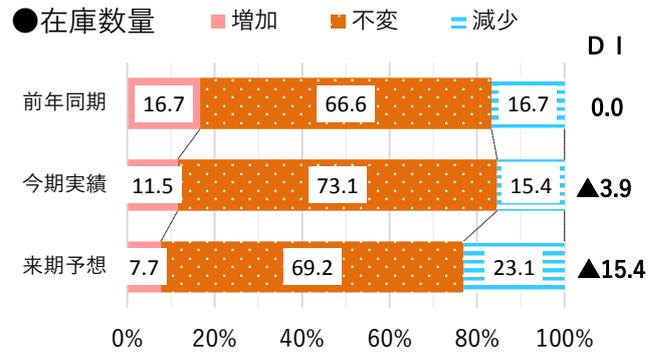
今期の仕入額DIは▲15.4で、前年同期と比べ40.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ仕入額が増加に転じると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲3.9で、前年同期と比べ3.9ポイント低下しました。

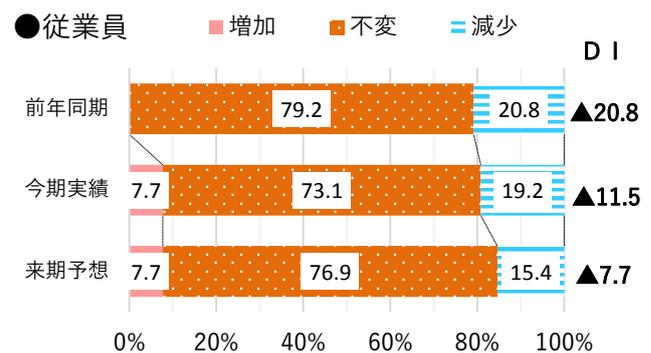
来期は、在庫数量の減少傾向が強まると予想しています。



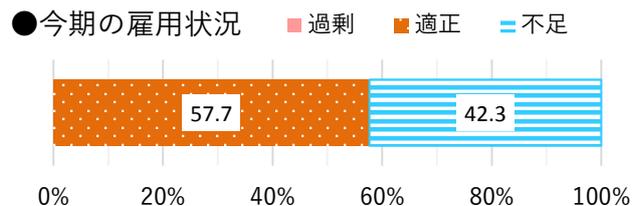
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.5で、前年同期と比べ9.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は57.7%、不足していると回答した企業の割合は42.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の50.0%を占めています。

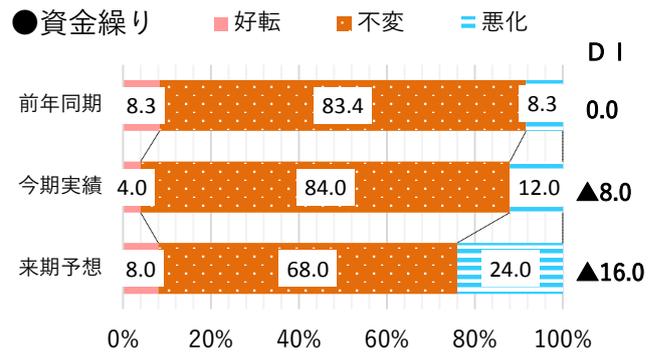
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

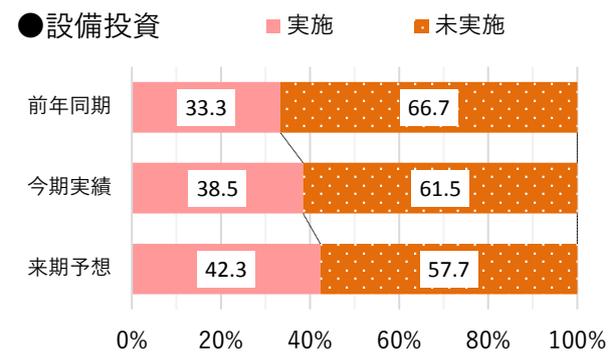
今期の資金繰りDIは▲8.0で、前年同期と比べ8.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



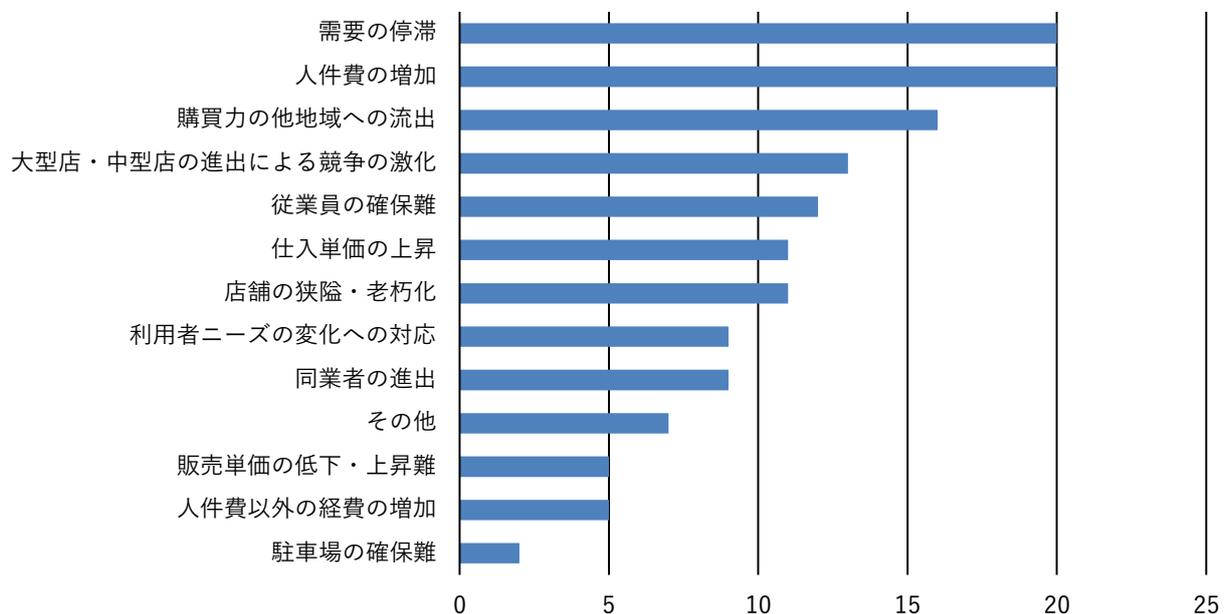
設備投資を実施した企業の割合は38.5%で、前年同期と比べ5.2%増加しました。投資内容は1位が「OA機器」、2位が「店舗」、「販売設備」、「車両運搬具」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は42.3%で、今期と比べ増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、「人件費の増加」（同位）、2位が「購買力の他地域への流出」、3位が「大型店・中型店の進出による競争の激化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 人口減少と消費税増税に不安を感じる。ネット販売や同業他社へ顧客が流出している。(食料品小売)
- 人材確保が難しい。(食料品小売)
- 原材料と包装資材の価格が上昇した。(菓子製造小売)
- ネット販売が増加しており、一般小売店の販売が減少している。若者は給料や休暇を重視しており、中小企業への就職を避けているのではないか。(衣服・身の回り品小売)
- 消費税増税に伴い、事前値上げを始めた。(衣服・身の回り品小売)
- 例年通り、売上が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 利用客と売上が増加したが、人材確保のため人件費が増加しており、採算は厳しい。(自動車小売)
- 全てにおいて、昨年度より好転している。(自動車小売)
- 販売が減少し、業況が悪化した。(自動車小売)
- 増税前の駆け込み需要によって売上が増加したが、想定した程ではなかった。(ドラッグストア)
- 客数減少に歯止めがかからない。ディスカウント店の出店が大きく影響した。(ホームセンター)
- 客数減少と客単価低下により、業況は悪化した。従業員の確保難が続いている。(大型店)
- 昨年競合店が出店して以来、売上と客数が若干減少しているが、客単価は上昇している。(大型店)
- インバウンド需要が低下したが、免税対象外の外国人客が増加している。(大型店)

[来期の業況について]

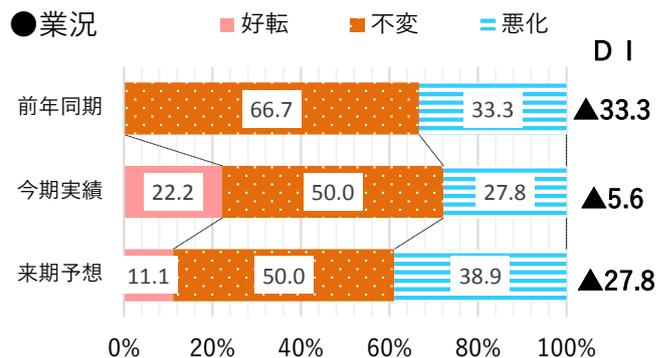
- 消費税増税による仕入価格の上昇と、消費の冷え込みが懸念される。(菓子製造小売)
- 消費税増税に伴う客数の減少が見込まれる。状況を確認しながら、サービス向上に取り組みたい。仕入先の老舗が廃業したため、今後の廃業増加が懸念される。(衣服・身の回り品小売)
- 市の人口減少、企業の支店や出張所の減少により、景気は更に悪化するだろう。(衣服・身の回り品小売)
- 増税に伴う買い控えが予想される。(衣服・身の回り品小売)
- 市場が縮小傾向にあるが、新機種投入による粗利単価の増加と、増収増益を見込む。(自動車小売)
- 競合店が増加し、販売が減少する見込みである。(自動車小売)
- 利用客数の減少が見込まれる。(自動車小売)
- 消費税増税による影響が予測できないため、守りの営業になると思われる。(ドラッグストア)
- 客数減少への対策を進めなければ、状況は変わらないと思う。(ホームセンター)
- 競合店の開店から1年ほど経過するため、売上の上昇を見込んでいる。消費税増税の影響は不透明である。最低賃金が上昇するが、経常利益は変わらないだろう。(大型店)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

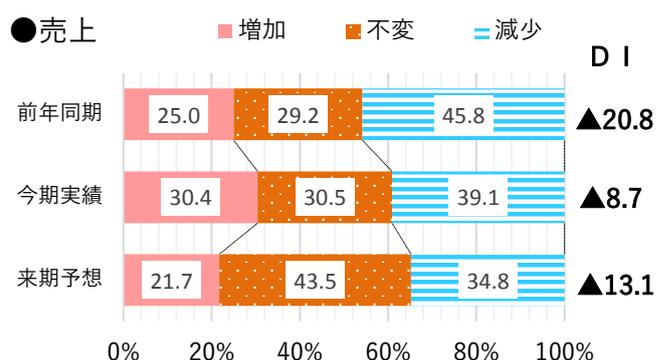
今期（2019.7～9）の業況判断DIは▲5.6で、前年同期（2018.7～9）と比べ27.7ポイント上昇しました。

来期（2019.10～12）は、今期と比べ業況の悪化傾向が強まると予想しています。



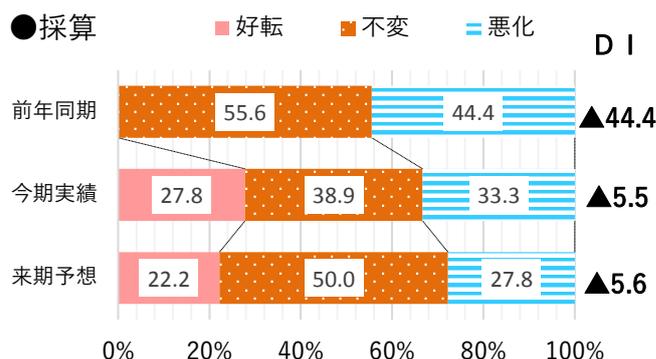
今期の売上高DIは▲8.7で、前年同期と比べ12.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、売上の減少傾向が続くと予想しています。

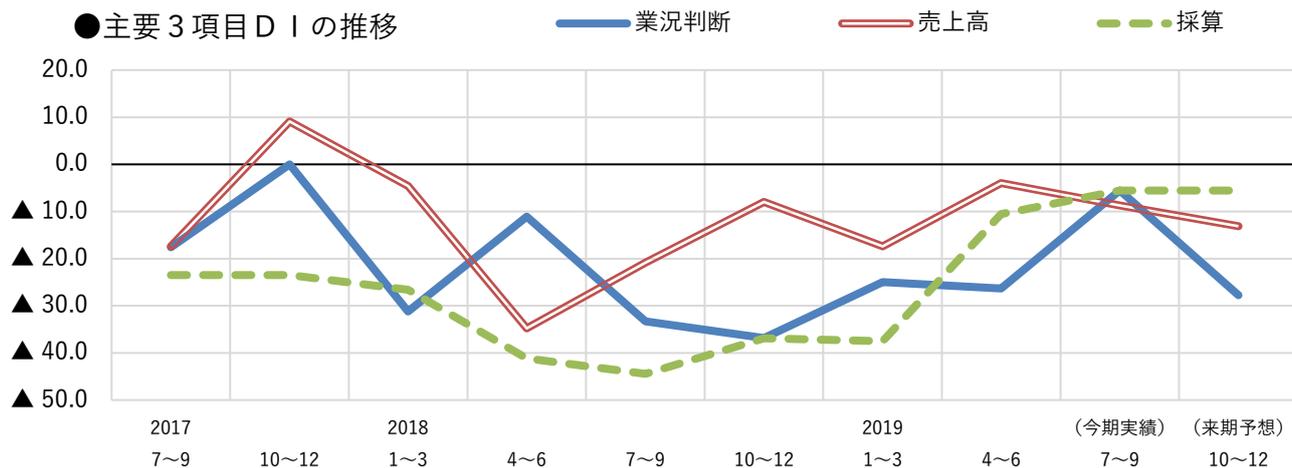


今期の採算DIは▲5.5で、前年同期と比べ38.9ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ採算はほぼ横ばいを予想しています。



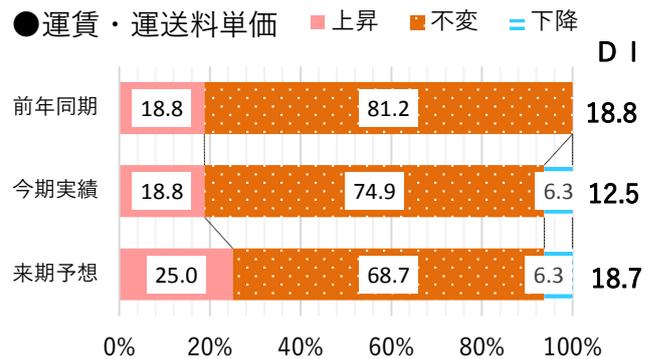
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

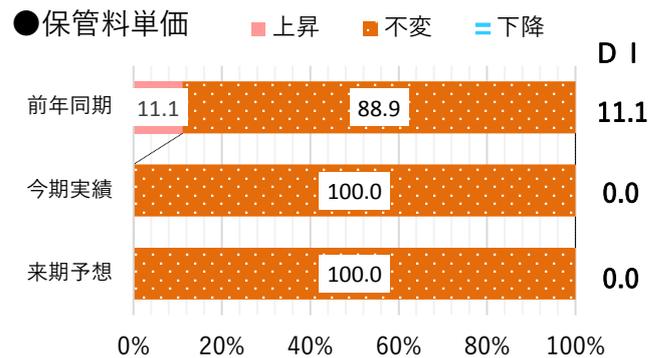
今期の運賃・運送料単価DIは12.5で、前年同期と比べ6.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ運賃・運送料単価が上昇傾向が強まると予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ11.1ポイント低下しました。

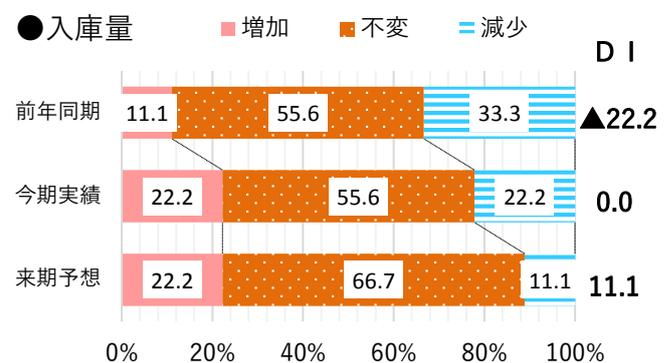
来期は、今期と比べ保管料単価の横ばいを予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

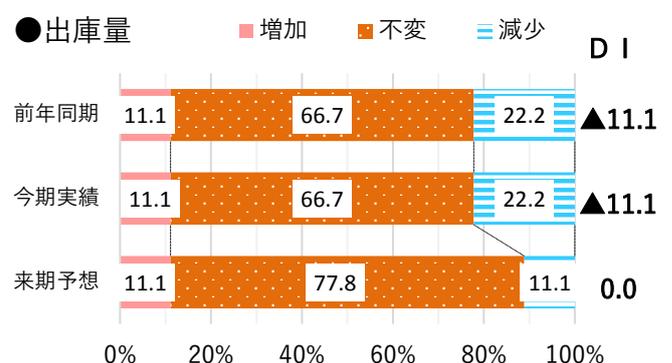
今期の入庫量DIは0.0で、前年同期と比べ22.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ入庫量の減少傾向が弱まると予想しています。



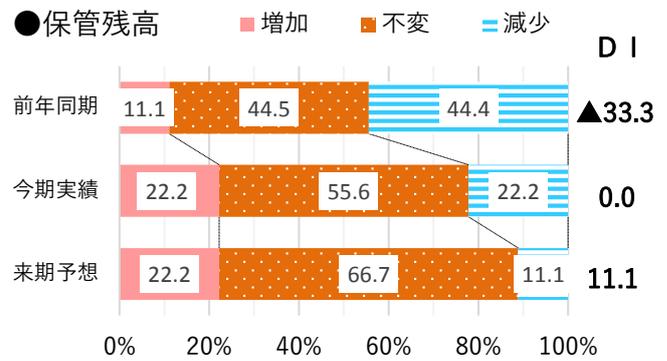
今期の出庫量DIは▲11.1で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、今期と比べ出庫量の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の保管残高DIは0.0で、前年同期と比べ33.3ポイント上昇しました。

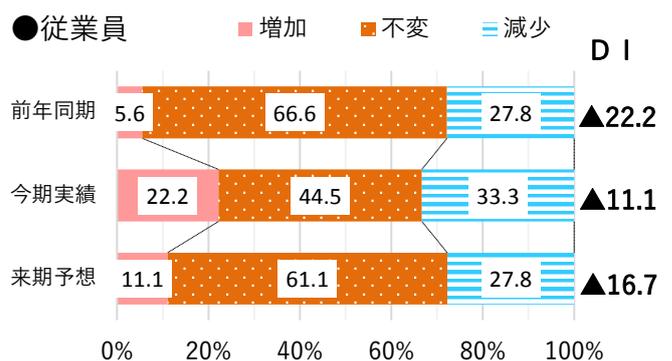
来期は、今期と比べ保管残高の減少傾向が弱まると予想しています。



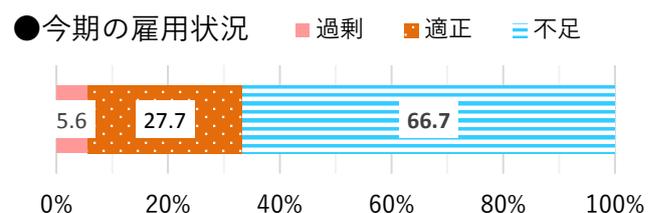
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.1で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの従業員の減少傾向が続くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.6%、適正であると回答した企業の割合は27.7%、不足していると回答した企業の割合は66.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の33.3%を占めています。

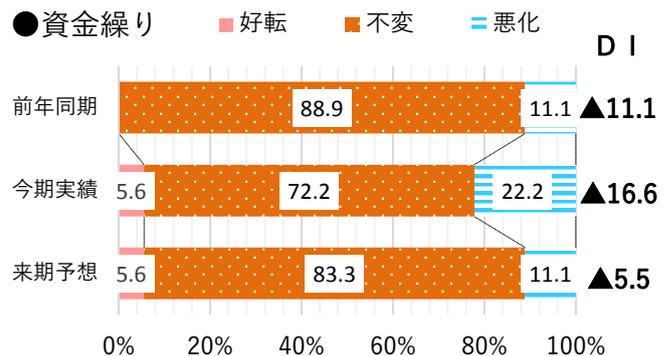
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	2
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	3
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	6

資金繰り、設備投資

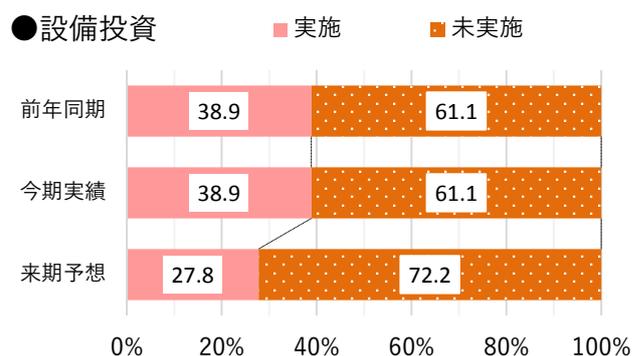
今期の資金繰りDIは▲16.6で、前年同期と比べ5.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ落ち着きの動きが出るものの、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



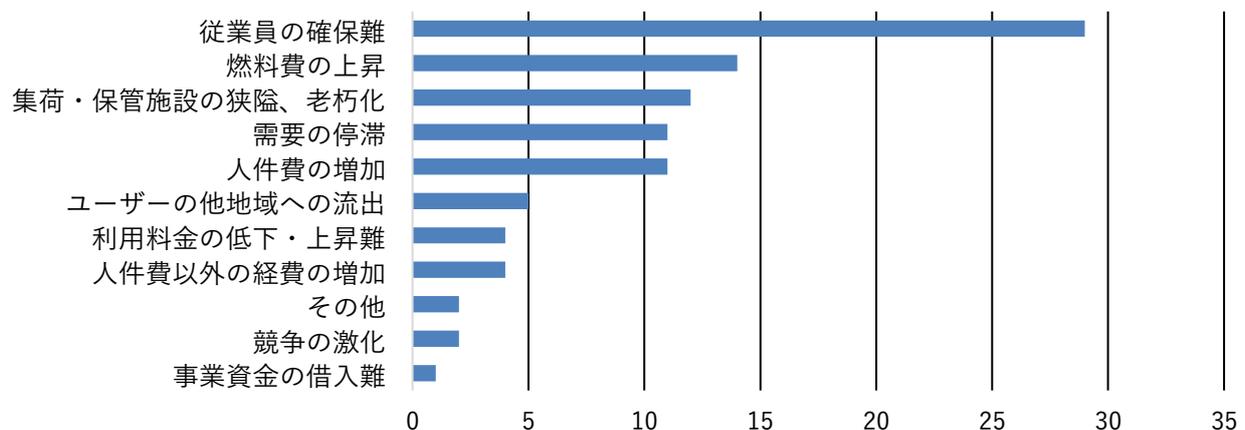
設備投資を実施した企業の割合は38.9%で、前年同期と比べ横ばいとなりました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は27.8%で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「燃料費の上昇」、3位が「集荷・保管施設の狭隘、老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 従業員の高齢化と確保難が課題である。燃料価格は安定しつつあるが、イランを巡る国際的な動向もあり、油断できない状況が続いている。(道路貨物運送)
- 政府米の入在庫量、運送量が増加し、前年同期と比べ増益した。(道路貨物運送)
- 燃料費が高止まりしているため、採算が悪化した。(道路貨物運送)
- 工事の進捗が進み、運搬量が増加した。(道路貨物運送)
- ミニマムアクセス米の取扱増により、業況が好転した。(港湾運送)
- 穀物等の貨物減少により、倉庫、輸送ともに減収となった。事務職、乗務職が不足しており、業況が悪化した。(道路旅客運送)
- 従業員不足と人口減少により、売上が減少した。(道路旅客運送)
- 市の高齢化が進んでおり、人材確保が非常に難しい。(道路旅客運送)
- 旅行、帰省シーズンのため、需要増加期であるが、台風10号の影響で8月のピーク時に欠航となり、振替が効かず、売上が減少した。燃料価格は低下しつつあるが、高止まりで推移している。(水運)

[来期の業況について]

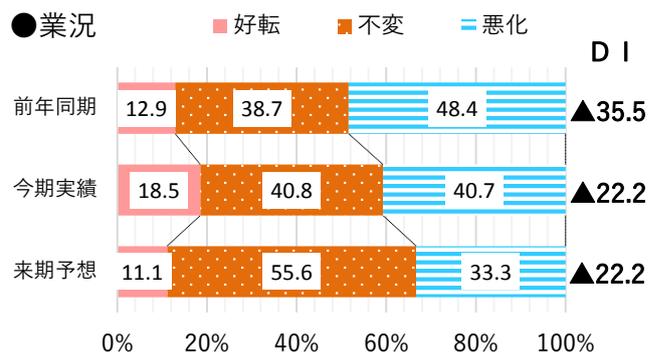
- 従業員不足のほか、最低賃金の上昇、消費税増税による業況悪化が見込まれる。(道路旅客運送)
- 貨物減少と乗務員減少による業況悪化が予想される。(道路旅客運送)
- 在庫量の増加により、売上が増加する見込みである。(倉庫)
- 売上、旅客数ともに今期がピークであるため、来期の業況の悪化が予想される。(水運)

観光業

業況、売上、採算

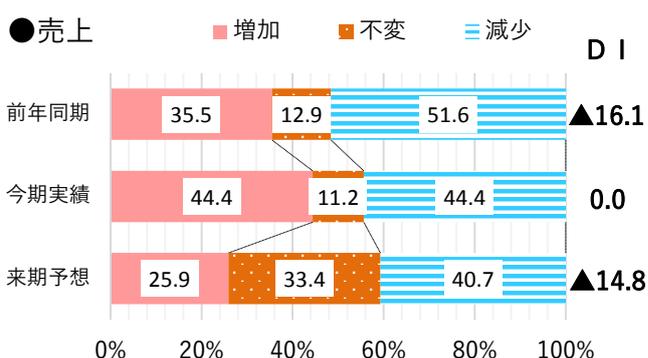
今期（2019.7～9）の業況判断DIは▲22.2で、前年同期(2018.7～9)と比べ13.3ポイント上昇しました。

来期（2019.10～12）は、今期と比べ業況の横ばいを予想しています。



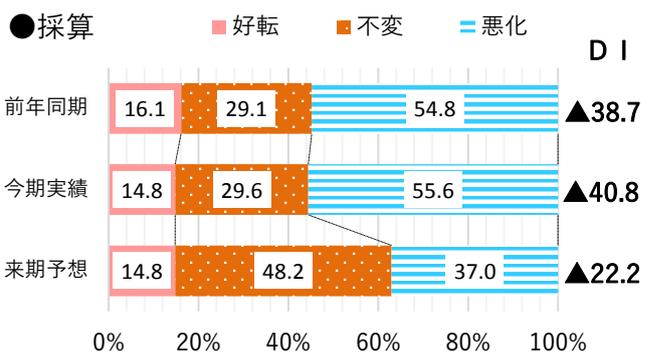
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ16.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上の減少傾向が強まると予想しています。

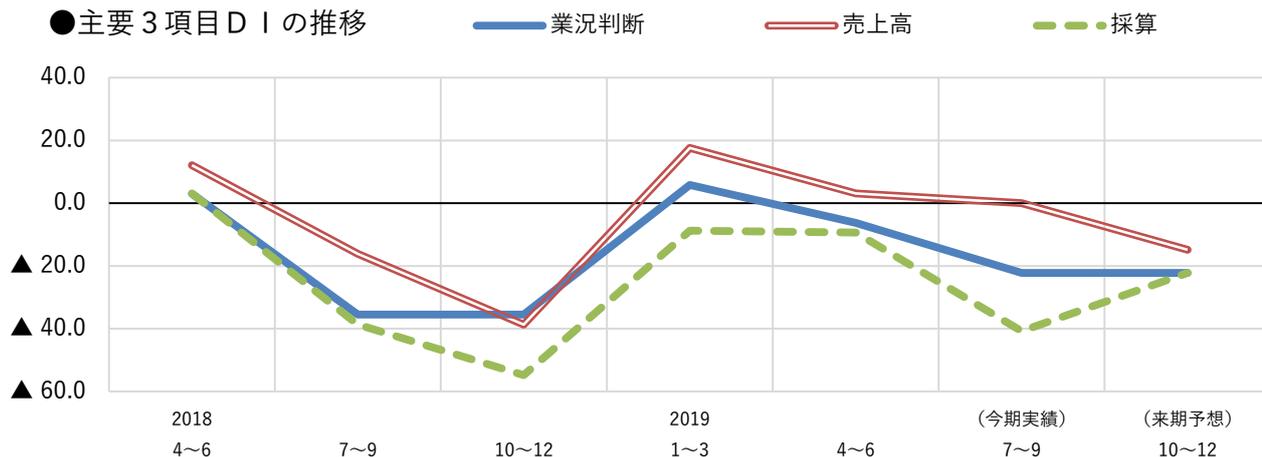


今期の採算DIは▲40.8で、前年同期と比べ2.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



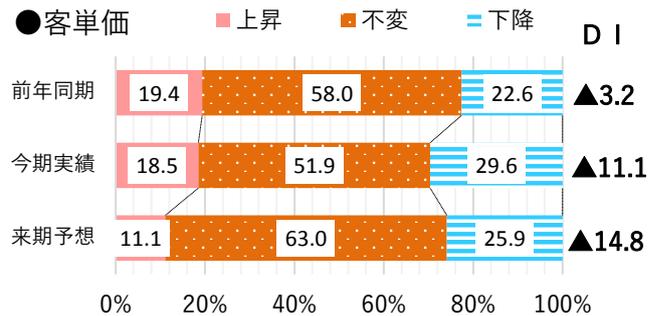
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

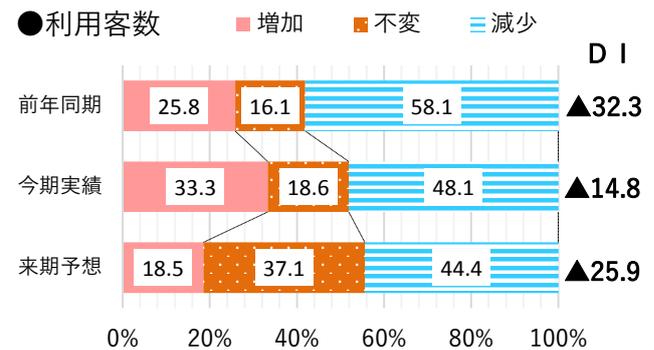
今期の客単価DIは▲11.1で、前年同期と比べ7.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ客単価に大きな変化はないと予想しています。



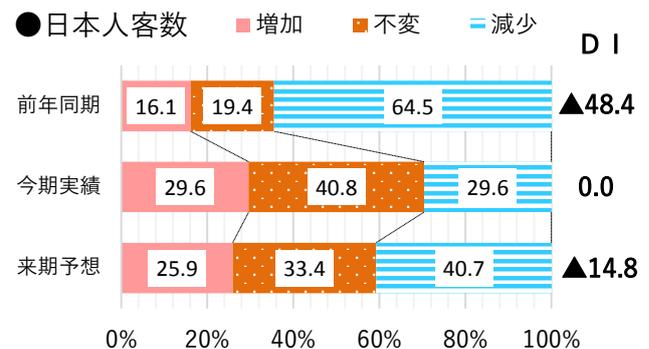
今期の利用客数DIは▲14.8で、前年同期と比べ17.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、利用客数の減少傾向が続くと予想しています。



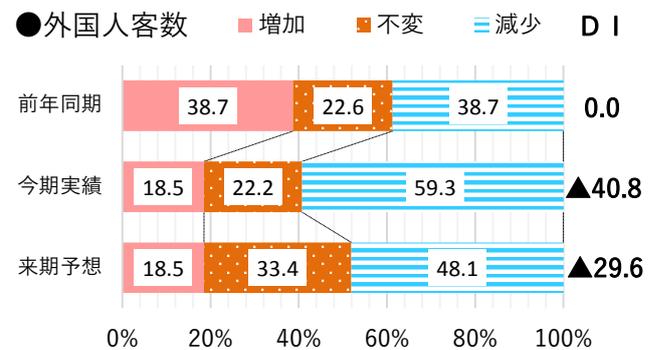
今期の日本人客数DIは0.0で、前年同期と比べ48.4ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ日本人客数の減少傾向が強まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲40.8で、前年同期と比べ40.8ポイント低下しました。

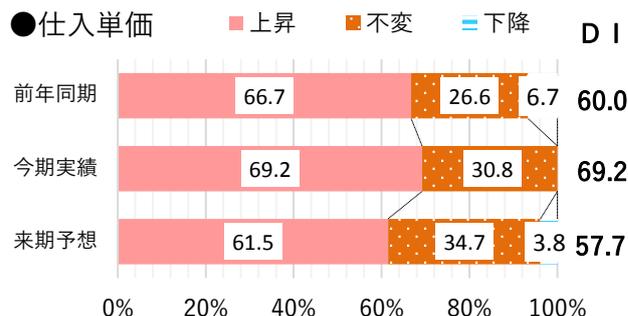
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、外国人客数の減少傾向が続くと予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは69.2で、前年同期と比べ9.2ポイント上昇しました。

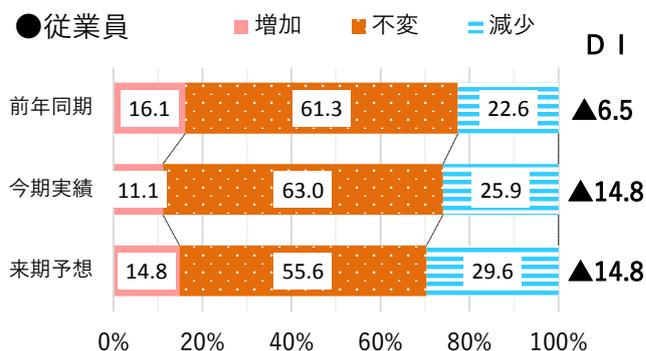
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



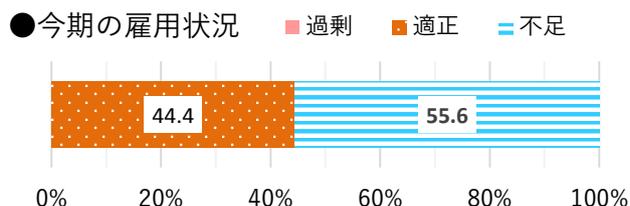
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲14.8で、前年同期と比べ8.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は44.4%、不足していると回答した企業の割合は55.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、観光業全体の33.3%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	5

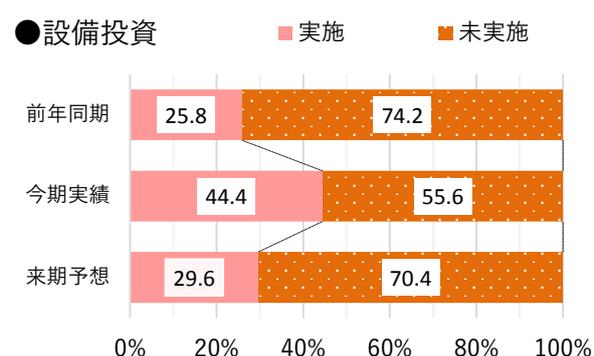
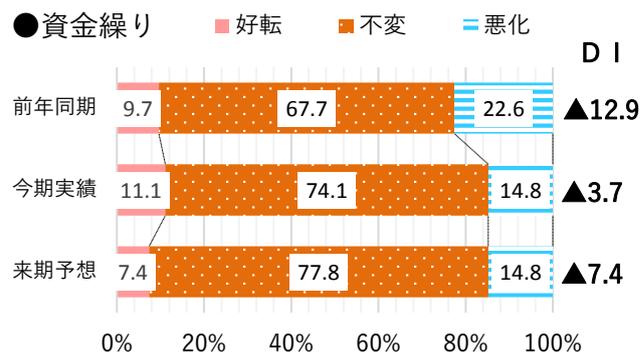
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲3.7で、前年同期と比べ9.2ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化傾向に大きな変化はないと予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は44.4%で、前年同期と比べて18.6%増加しました。投資内容は、1位が「建物」、
「付帯施設」、「OA機器」（同位）、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は29.6%で、今期と比べ減少すると予想しています。

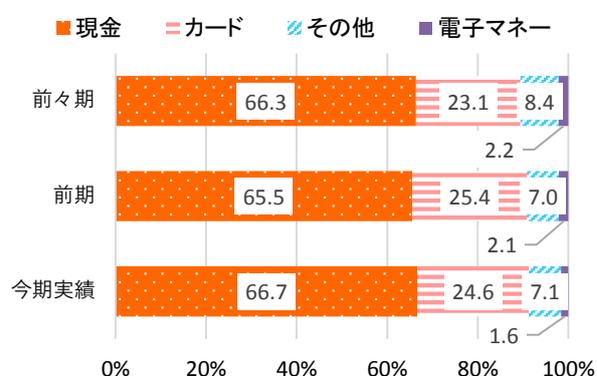


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で66.7%、2位がカードで24.6%、3位がその他で7.1%、4位が電子マネーで1.6%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振込、小切手、旅行代理店による支払、クーポン券、掛売りです。

●今期利用客の決済方法(%)

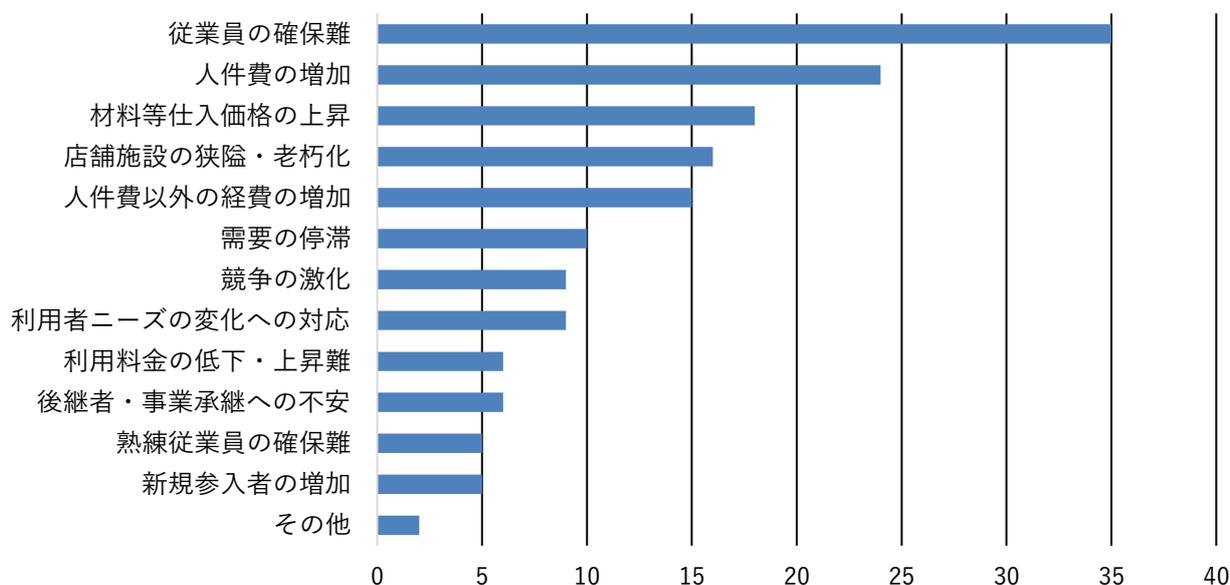


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は67.3%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 小樽、札幌に新しいホテルが増加しており、利用客が流出した。日韓関係の悪化、香港のデモの影響で、外国人客が減少した。（ホテル）
- 外国人（韓国、アジア圏）のキャンセルが多かった。消費税増税を控え、仕入価格が値上がりした。（ホテル）
- 日韓関係の悪化が、外国人旅行者数に与える影響を注視したい。（ホテル）
- 日韓関係の悪化により、韓国からの観光客が減少した。（ホテル）
- スポーツ合宿やゼミ合宿による利用で、7月、8月の客数が増加した。（コテージ・ペンション）
- 去年は地震と台風で利用客数が減ったが、今年は例年通りとなった。（コテージ・ペンション）
- 外国人客が多い。中国人観光客は増加したが、韓国人観光客は減少した。外国人向けメニューを強化しなければならぬが、外国人観光客が減少した後の経営を考えると、国内客を大切にしなければならないと思っている。（飲食店）
- 昨年9月は、胆振東部地震の影響で売上が低下した。今年は災害が無ければ、売上がやや増加する見込みである。（飲食店）
- 9月以降、韓国人観光客の減少が目立つが、日本人観光客により、埋め合わせができています。（飲食店）
- 原材料の全般的な値上がりが不安材料である。（飲食店）
- ゴールデンウィーク以降、日本人客、外国人客ともに急激に減少し、売上が減少した。小樽の観光を取り巻く環境の変化を強く感じている。また、賃金、運送料、包装資材の価格が上昇しており、収益も減少している。若手社員が定着せず、人手不足が深刻である。（土産品）
- 外国人客はもともと少ないため、影響はない。仕入価格の微増が続いたが、現在は高止まり傾向にある。現在従業員は確保できているが、今後は不安である。（土産品）
- 昨年同期は震災の影響で売上が激減したが、今年は回復した。従業員の時給を引き上げ、休暇を増やしたが、求人に対する申込は少ない。（土産品）
- 営業時間縮小と店舗工事のため、思うように客数が伸びなかった。外国人客が減ったと思う。（土産品）

- 韓国からの観光客が減少したが、売上への影響は小さい。昨年は震災の影響で業況が悪化したが、今年は順調に推移している。（土産品）
- 潮まつり、お盆、9月の彼岸の時期の売上が好調だった。（土産品）
- 韓国人観光客が減少し、売上が減少した。人材不足、燃料代の高騰を受け、車両の回送代金を値上げしたため、利用客数が減少した。（レンタカー）
- 利用客数は、前年同期と比べ増加した。特に、7月と9月の増加が顕著である。（水運業）
- 運賃を引き上げたことで、売上額が増加した。（船舶賃渡業）

[来期の業況について]

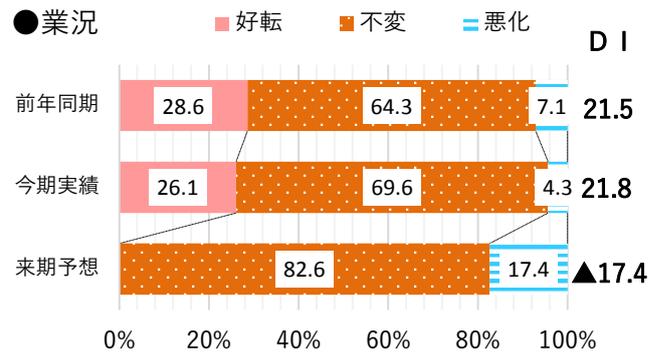
- 日韓関係が懸念される。消費税増税により、客数や売上が減少するだろう。（ホテル）
- 消費税増税後の旅行者の行動パターンが予測できない。（ホテル）
- 消費税増税、宿泊施設の増加、閑散期到来のため、業況は悪化するだろう。（コテージ・ペンション）
- 秋から冬にかけて観光客が激減するため、売上は期待できない。（飲食店）
- 韓国人観光客の減少が懸念される。（飲食店）
- 消費税増税の影響が懸念される。（飲食店）
- 外国人観光客の増加を見込む。（飲食店）
- 消費税増税により、3～6か月ほど売上の減少が続くと予想している。主要取扱品が生活必需品ではないことから、不振の長期化も危惧している。昨年の震災以降、小樽の観光には逆風が吹いていると感じている。業況回復には2～3年かかると覚悟している。（土産品）
- 冬の到来が早ければ、客足が遠のいてしまうだろう。（土産品）
- 消費税増税のため、客数は減少する見込みである。（土産品）
- 外国人客数の回復は見込めない。（土産品）
- 冬季は営業時間が短くなるため、業況が悪化する見込みである。（レンタカー）
- 今期同様、厳しい状況が続くだろう。（レンタカー）
- 例年、利用客数が減少する期間のため、減少率を低くすることが課題である。（水運業）
- 天候により利用客数が増減するため、業況予測が難しい。（船舶賃渡業）

サービス業

業況、売上、採算

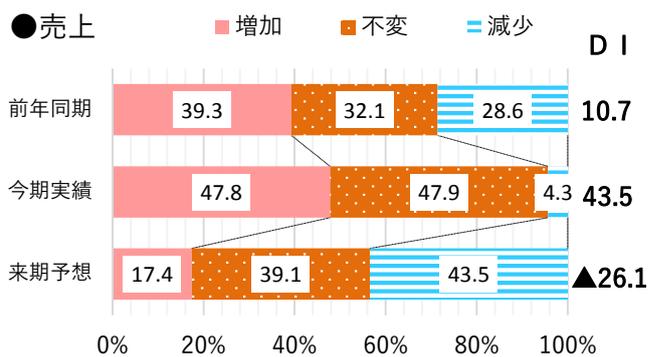
今期（2019.7～9）の業況判断DIは21.8で、前年同期（2018.7～9）と比べ0.3ポイント上昇しました。

来期（2019.10～12）は、今期と比べ業況が大幅な悪化に転じる予想しています。



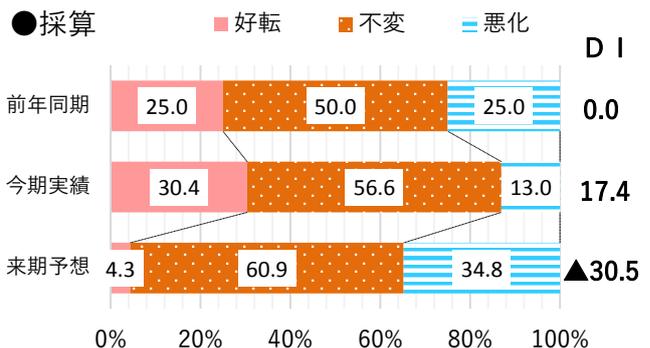
今期の売上高DIは43.5で、前年同期と比べ32.8ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上が大幅な減少に転じると予想しています。

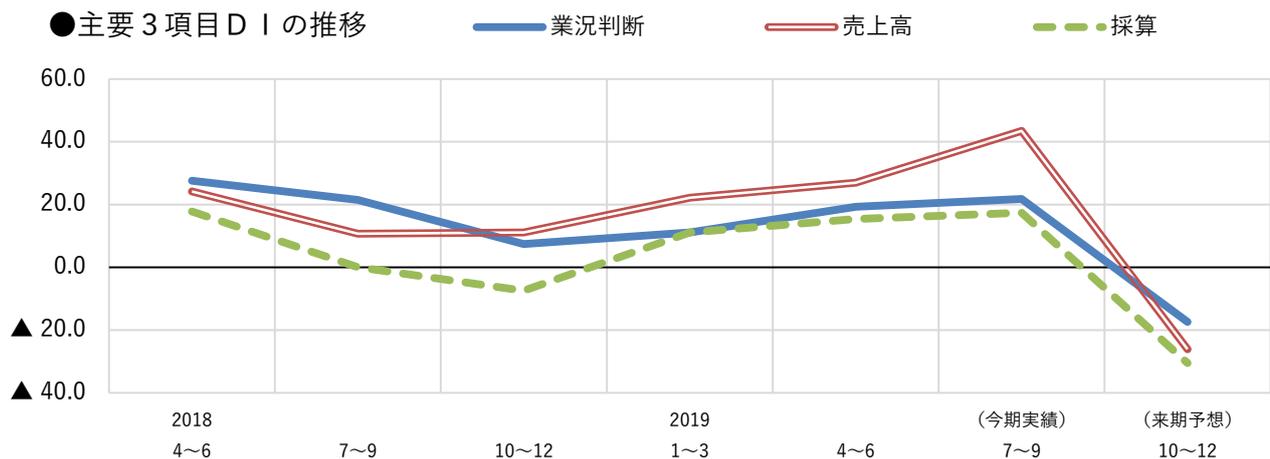


今期の採算DIは17.4で、前年同期と比べ17.4ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ採算が大幅な悪化に転じると予想しています。



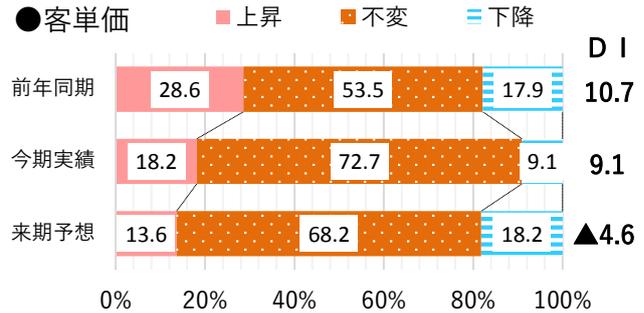
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

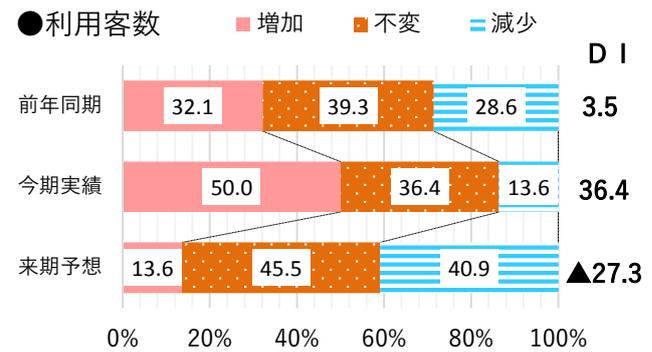
今期の客単価DIは9.1で、前年同期と比べ1.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ客単価が下降に転じると予想しています。



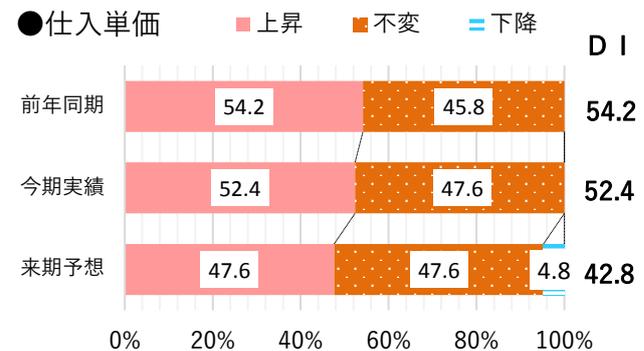
今期の利用客数DIは36.4で、前年同期と比べ32.9ポイント上昇しました。

来期は、利用客数が大幅な減少に転じると予想しています。



今期の仕入単価DIは52.4で、前年同期と比べ1.8ポイント低下しました。

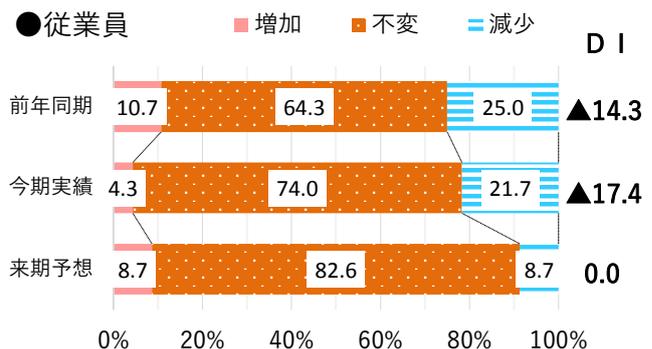
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



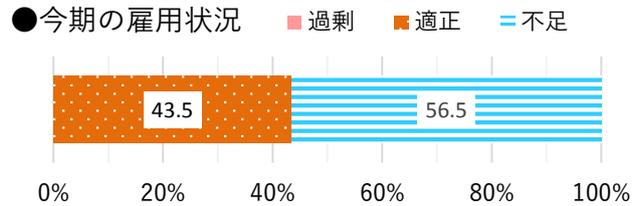
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲17.4で、前年同期と比べ3.1ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は43.5%、不足していると回答した企業の割合は56.5%でした。



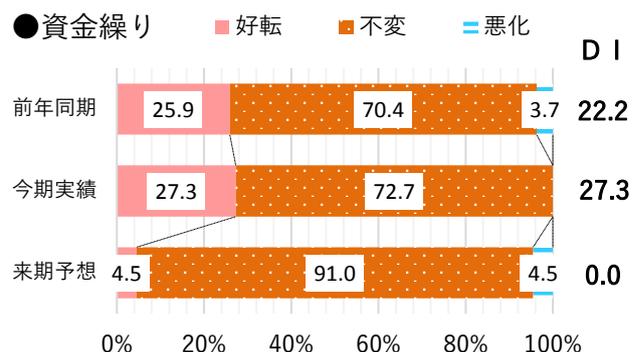
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の39.1%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

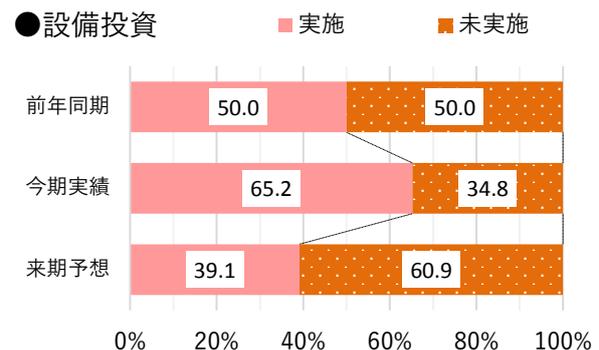
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは27.3で、前年同期と比べ5.1ポイント上昇しました。



来期は、今期と比べ資金繰りの好転傾向が大幅に弱まると予想しています。

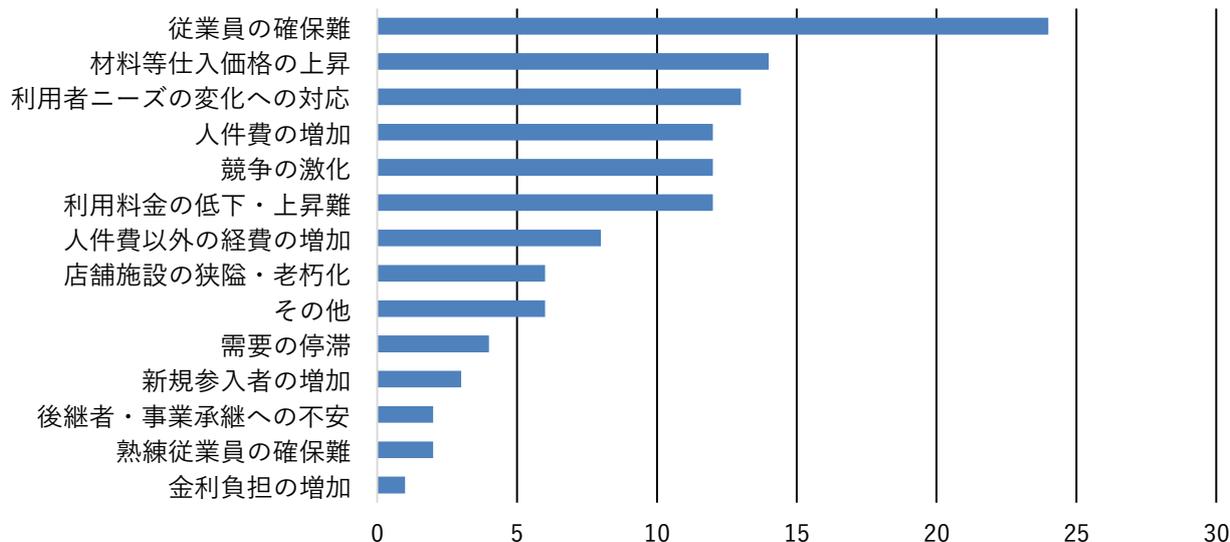
設備投資を実施した企業の割合は65.2%で、前年同期と比べ15.2%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「サービス設備」、「OA機器」（同位）の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は39.1%で、今期と比べ減少すると予想しています。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 本州からの観光客が多く、売上が増加した。（飲食店）
- 最低賃金を引き上げたため、業況が悪化した。（ビルメンテナンス）
- 生命保険の税制変更により、売上が低下した。（保険業）
- 人材確保が難しい。（保険業）
- 消費税増税を控え客数が増加傾向にある。新商品の仕入単価が高騰している。（美容業）
- 利用客数、仕入価格、賃金は昨年同期と変わらない。従業員が不足している。（美容業）
- 周年企業の旅行取扱が増加した。（旅行代理店）
- リサイクル施設と、残土処分場が閉鎖したことで、顧客と売上が減少した。車両とリサイクル用機械に係る設備投資費用が高騰している。人材はある程度補充できているが、スキルアップが課題である。賃金を引き上げたため、人件費が負担となっている。（廃棄物処理業）
- 安定した天候のため、キャンセルが少なく、利用客数と売上が増加した。季節雇用者の確保が難しい。（スポーツ施設）
- 利用客の増加により売上が増加した。競合とのシェア率が変化した。（教養・技能教授業）
- 利用客数が前期より6%減少した。原材料価格は45%上昇した。（写真業）
- 人材確保が難しく、資材等の仕入価格が上昇しているため、業況は楽観できない。（各種物品賃貸業）

[来期の業況について]

- 年末に向けて、魚介類等の仕入価格が上昇する。消費税増税による売上減少が懸念される。（飲食店）
- 災害リスク対策としての損害保険の売上増加に期待する。（保険業）
- 10月は消費税増税により客数が減少するが、売上は増加すると思う。12月以降は、例年通りの客数に戻り、売上が増加するだろう。（美容業）
- 学生団体からの受注が増加しており、安定した財源は確保できるだろう。周年企業の旅行取扱増加を期待している。（旅行代理店）
- 賃金、仕入代金の上昇に伴い、プレー料金の値上げを検討している。（スポーツ施設）
- 増税による売上減が見込まれる。（教養・技能教授業）

建設業

業況、売上、採算

今期（2019.7～9）の業況判断DIは5.0で、前年同期(2018.7～9)と比べ5.0ポイント上昇しました。

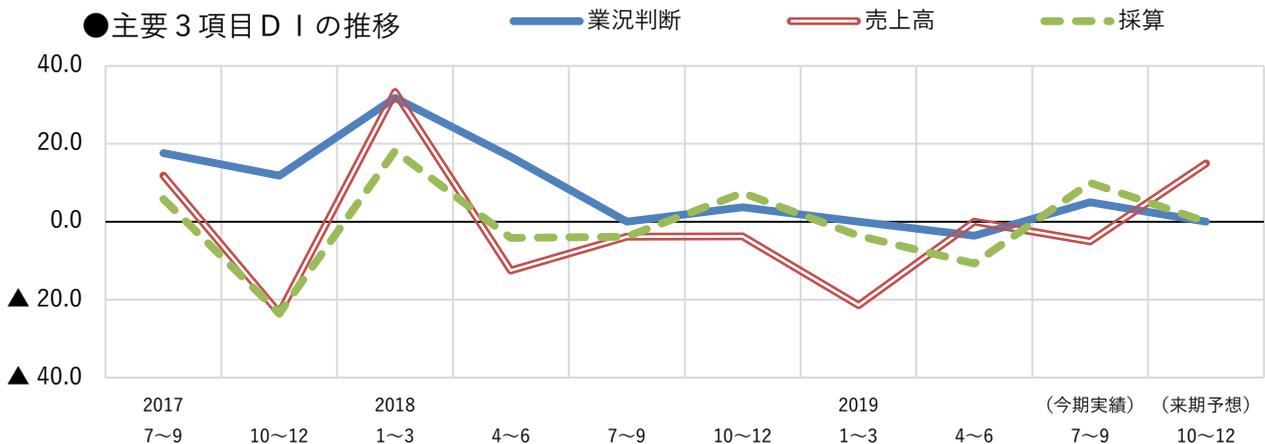
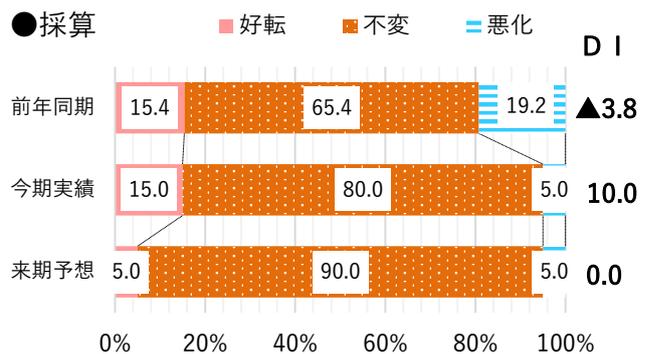
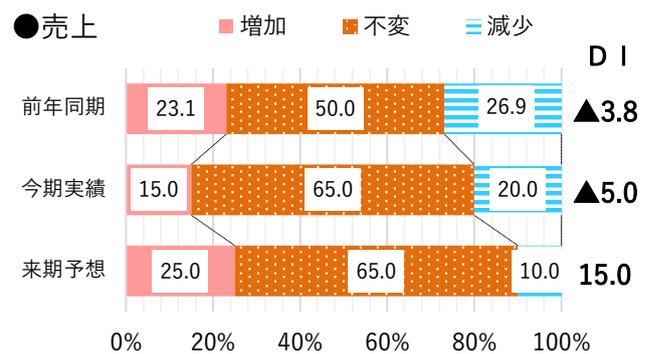
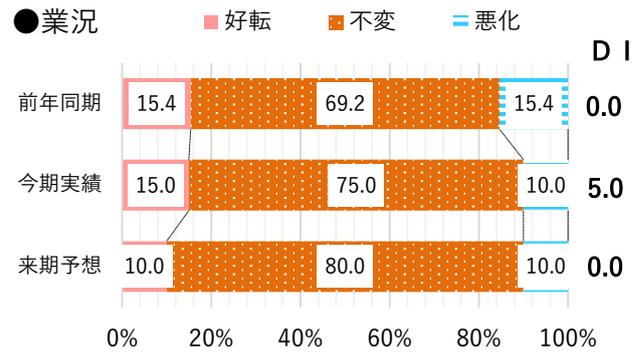
来期（2019.10～12）は、今期と比べ業況に大きな変化はないと予想しています。

今期の売上高DIは▲5.0で、前年同期と比べ1.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上が増加に転じると予想しています。

今期の採算DIは10.0で、前年同期と比べ13.8ポイント上昇しました。

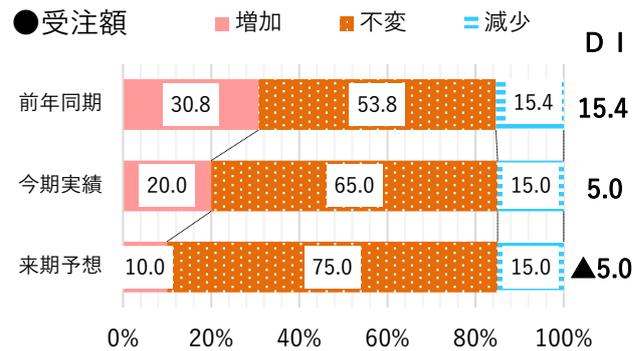
来期は、今期と比べ採算の好転傾向が弱まると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

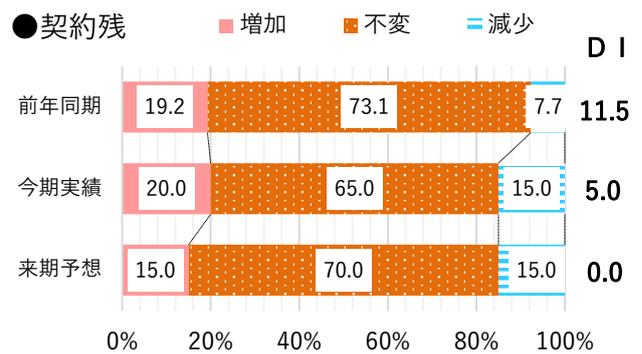
今期の受注額DIは5.0で、前年同期と比べ10.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ受注額が減少に転じると予想しています。



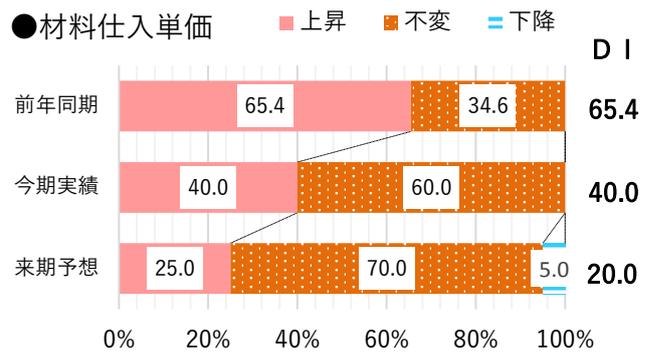
今期の契約残DIは5.0で、前年同期と比べ6.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ契約残の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは40.0で、前年同期と比べ25.4ポイント低下しました。

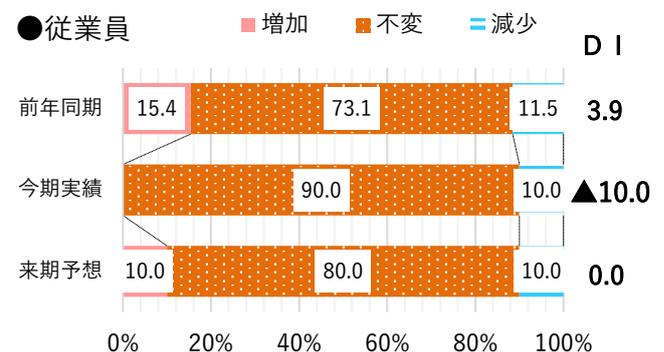
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、材料仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.0で、前年同期と比べ13.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。

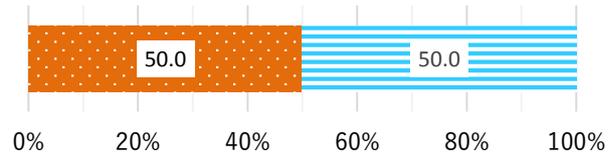


今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、建設業全体の50.0%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

●今期の雇用状況 ■ 過剰 ■ 適正 ■ 不足



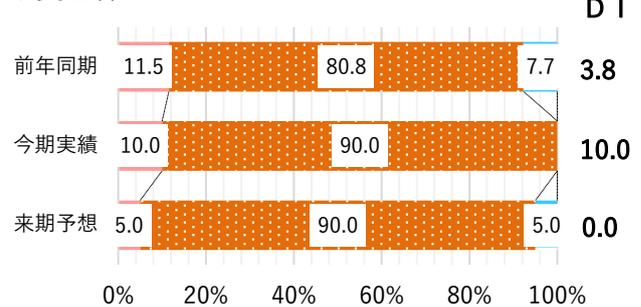
今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは10.0で、前年同期と比べ6.2ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

●資金繰り ■ 好転 ■ 不変 ■ 悪化



設備投資を実施した企業の割合は40.0%で、前年同期と比べ16.9%増加しました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「車両運搬具」、「付帯施設」の順です。

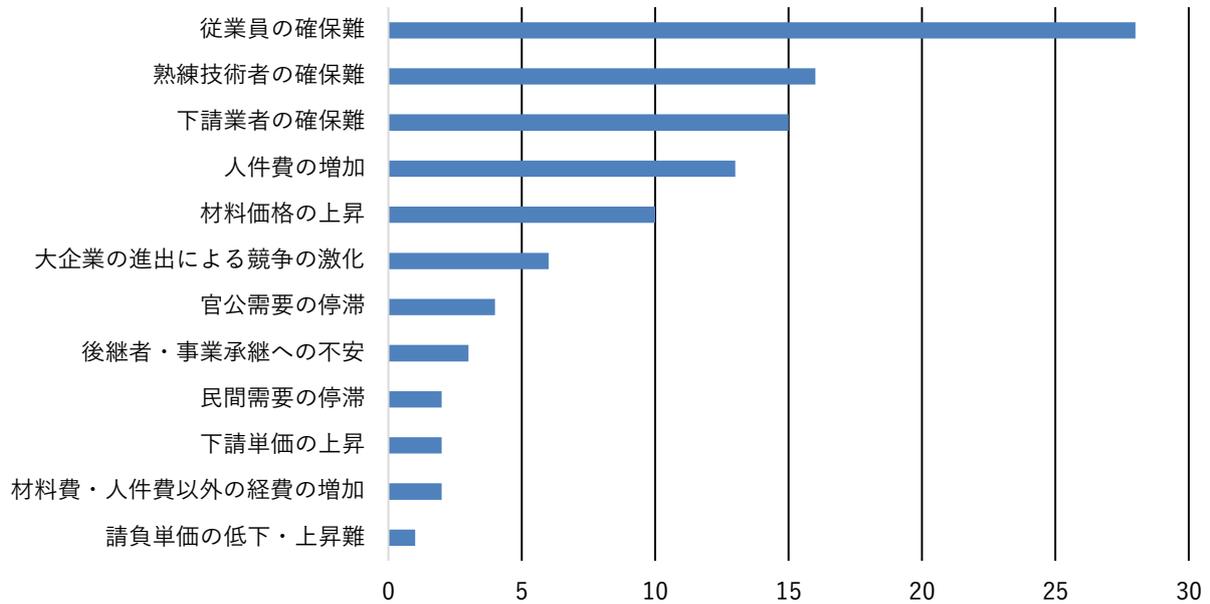
来期に設備投資を計画している企業の割合は35.0%で、今期と比べ減少を予想しています。

●設備投資 ■ 実施 ■ 未実施



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「下請業者の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 引き受けられる仕事量に合わせ、受注を調節しているので、業界の景気は良いと思う。（一般管工事業）
- 仕事はあるが、人材不足のため受注できない工事がある。（職別工事業）
- 前年と大差無いが、従業員の高齢化が進んでおり、数年後の人材不足が懸念される。（電気工事業）
- 市役所から受託した業務が予定通り進んだ。（庭園業）

[来期の業況について]

- 消費税増税による受注減少の影響は、限定的だと思う。（一般管工事業）

市内企業倒産状況

2019年7月~9月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は2件、前年同期比増加
負債総額は2億2,000万円、前年同期比増加

	倒産件数		負債総額
	2件		2億2,000万円
前年同期比	件数 +1件 (前年同期 1件)		負債 +1億9,400万円 (前年同期2,600万円)
<hr/>			
■7月	なし		
■8月	運送業（負債1億円：業績不振による破産）の1件が発生した。		
■9月	建築工事（負債1億2,000万円：業績不振による破産）の1件が発生した。		

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2019年7月~9月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は86件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は56棟104戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数
	86件		56棟104戸
前年同期比	件数 -30件 (前年同期 116件)		戸数 -12棟22戸 (前年同期 68棟126戸)
※変更確認又は変更通知を除く。			